

大阪広域バイエリアまちづくりビジョン（案）

令和3年8月

大阪広域バイエリアまちづくり推進本部

目次

1. はじめに	3
2. 大阪広域ベイエリアを取り巻く状況等	
■大阪を取り巻く状況	4
■大阪広域ベイエリアの現状	5
3. 大阪広域ベイエリアがめざす姿と取組みの方向性	
■大阪広域ベイエリアがめざす姿	8
■取組みの方向性	11
4. “みがく”取組み	
■主な取組み	13
■大阪～堺地区の取組み	15
【重点エリア】 夢洲・咲洲、築港・天保山、堺浜、堺駅・堺旧港	
■堺泉北地区の取組み	21
【重点エリア】 浜寺水路周辺、泉大津旧港周辺	
■岸和田～泉佐野地区の取組	25
【重点エリア】 岸和田旧港周辺	
■関空・りんくう地区の取組み	29
【重点エリア】 りんくうタウン	
■阪南～岬地区の取組み	33
【重点エリア】 はんなんさとうみ周辺、深日港・多奈川臨海、みさき公園	
5. “つなぐ”・“広げる”取組み	
■“つなぐ”・“広げる”取組みについて	37
■海上交通による交流機能の充実	39
■広域サイクル連携の推進	40
■その他の“つなぐ”取組み	41
■その他の“広げる”取組み	43
6. “育てる”取組み	44
7. 実現に向けて	
■様々な主体が連携したベイエリアのまちづくり	45
【参考】主な取組みの目標年次	47

1. はじめに

【ビジョン策定の主旨】

大阪は、古くから海に開かれた交通の要衝で、飛鳥時代には「難波津」が遣隋使・遣唐使などの使節往来の拠点として発展するとともに、難波（現大阪市中央区）には、日本随一の国際港を擁する「難波宮（なにわのみや）」が置かれ、モノや情報が集まる交流・交易の中心都市であった。また、室町時代には、堺が明や琉球との貿易により港として発展し、江戸時代には、日本経済の中心地として北前船等の廻船が多数往来するなど、海から都市が発展してきた。

その後、鉄道・道路網の発達により、大阪の都市のにぎわいの中心は徐々に内陸部へ遷移し、関西国際空港の開港を契機に、大阪湾臨海地域開発整備法のもと、様々なプロジェクトが展開され一定の基盤が整備されたものの、かつてのにぎわいを取り戻すには至っていない。

一方、ニューヨークやシンガポールなど世界の大都市では、国際空港と近接し、大型クルーズ客船の就航、先端企業や集客施設の集積などにより、人・モノ・投資がベイエリアに集まり、新たなにぎわいや価値を創出している。

大阪・関西でも、夢洲における大阪・関西万博の開催が決定し、IR誘致に向けた取組みが進められている。さらに、咲洲で開催されたG20大阪サミットでは「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有され、国際競争力があり、利用者ニーズに合った使いやすい港をめざして「大阪港湾局」が設置されるなど、ベイエリアを取り巻く社会情勢が大きく変化している。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により、インバウンドの消失や雇用環境の悪化など大阪経済や府民生活が甚大な影響を受けるとともに、「新しい生活様式」やDX（デジタルトランスフォーメーション）の加速など、社会システムの変革をもたらす新たな潮流も生じている。

これらを踏まえ、夢洲における大阪・関西万博・IRのインパクトや関連インフラ整備の効果を、泉州地域沿岸部の様々な地域資源を最大限に活用することで、ベイエリア全体の活性化、更なる大阪・関西の発展につなげていく必要がある。

このため、「大阪の再生・成長に向けた新戦略」や「大阪“みなと”ビジョン」、沿岸市町の計画等を踏まえ、西日本の海と空の玄関口となる大阪広域ベイエリアの将来像を示すとともに、ベイエリアの活性化に関わる様々な主体の取組みの基本的な方向性を示すビジョンを策定した。

今後、このビジョンにより、関係者が連携し、広く情報共有し、民間投資を呼び込みながら、ベイエリアのまちづくりを推進していく。

なお、ビジョン策定に当たっては、各分野の学識経験者、民間事業者等へのヒアリングや泉州地域の市町との意見交換を行い、検討を進めた。



2025年日本国際博覧会会場の鳥瞰図イメージ
提供：2025年日本国際博覧会協会



G20大阪サミット
出典：外務省ウェブサイト

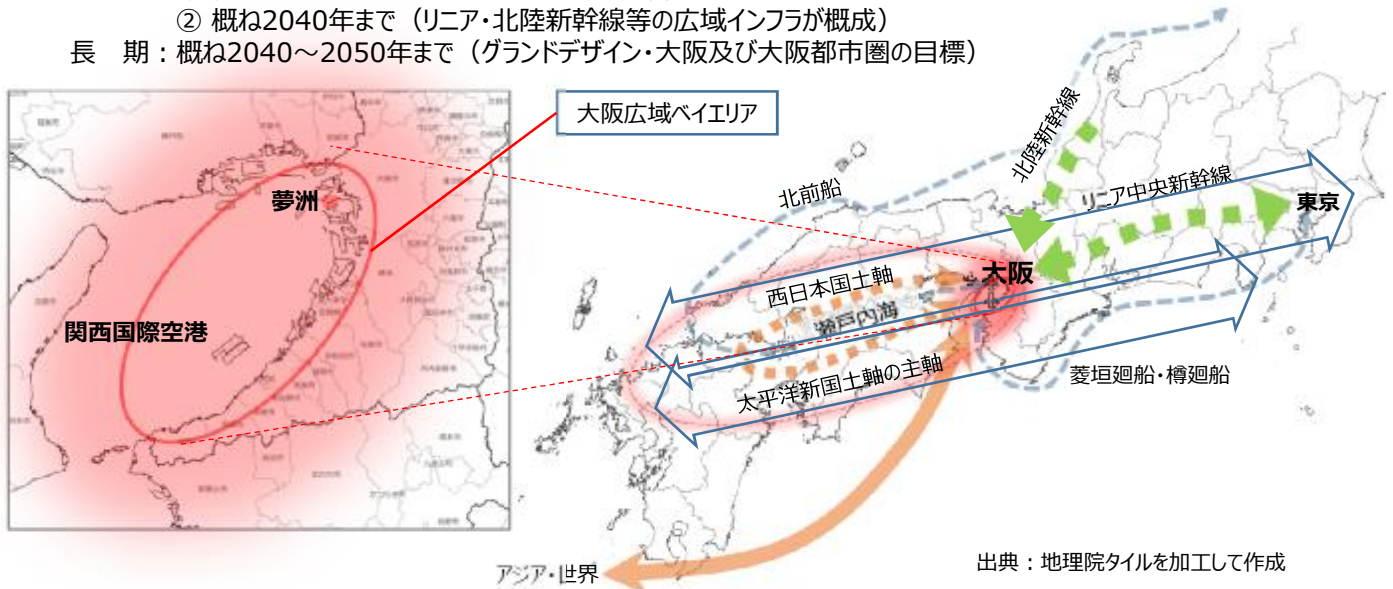
【対象範囲】

大阪広域ベイエリア（大阪市から岬町までの沿岸9市3町の臨海部・沿岸部や地先水面）を基本とし、内陸部や他府県、大阪湾の地域資源も連携の対象とする。

【目標年次】

まちづくりに関する動向を見据え、万博をメルクマールとして、短期、中期、長期の目標年次について次のとおり設定した。

- 短期：概ね2025年まで（夢洲で万博が開催）
- 中期：① 概ね2030年まで（IR、なにわ筋線が開業）
② 概ね2040年まで（リニア・北陸新幹線等の広域インフラが概成）
- 長期：概ね2040～2050年まで（グランドデザイン・大阪及び大阪都市圏の目標）



出典：地理院タイルを加工して作成

※本ビジョンは、2050年の大阪広域ベイエリアがめざす姿と取組みの方向性を示すものであり、今後、関係者で協議・調整のうえ具体化に取り組んでいく。

具体化にあたっては、民間主導によりまちづくりを進めるという基本的な考えのもと、行政として取り組むべきものについては、厳しい財政状況にあっても財政規律を堅持しながら、費用対効果を精査したうえで進めていく。なお、必要に応じて、各種行政計画に反映するとともに、経済・社会情勢等の変化を踏まえ適宜見直していくものとする。

2. 大阪広域バイエリアを取り巻く状況等

■大阪を取り巻く状況

デジタル技術の大幅な進展、新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢を踏まえるとともに、その変化がもたらす、人々の暮らし方・働き方や価値観、社会のあり方等への影響を考慮する必要がある。

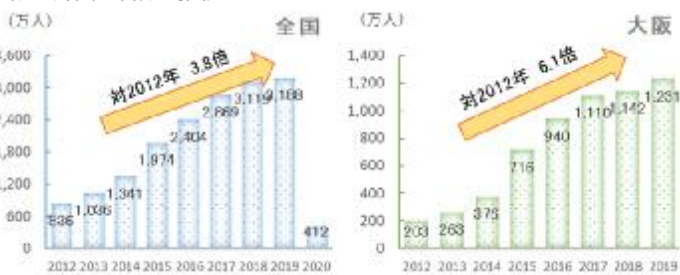
【社会・経済情勢】

- 少子高齢化の進展と新型コロナウイルス感染拡大による東京一極集中リスクの顕在化
- 近年のインバウンドの急増と新型コロナウイルス感染拡大による急減
- 健康・医療関連産業の集積
- 第4次産業革命による産業構造の変化
- Society 5.0の到来による働き方・暮らし方の変化 等



出典：内閣府

訪日外国人客数の推移



出典：全国) 日本政府観光局「訪日外客数統計」、大阪) 大阪観光局推計

【新型コロナの感染拡大の影響と新たな潮流】

「大阪の再生・成長に向けた新戦略（ウイズコロナからポストコロナへ）」（令和2年12月 大阪府・大阪市）より

	影響	新たな潮流
経済 (産業・雇用)	<ul style="list-style-type: none"> ◇実質成長率の大幅な低下予測 ◇大阪の成長の柱の一つであったインバウンド需要の消失 ◇宿泊、飲食業等を中心とした国内消費の減少 ◇貿易額（輸出・輸入）の減少 ◇企業業績の悪化、倒産増加の恐れ ◇雇用環境や外国人材の受入環境の悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆E Cの拡大など消費行動の変化 ◆テレワークなど、働き方の変化 ◆オンラインによるイベント等の開催 ◆ポストコロナを見据えた成長産業 ◆国際金融体制・市場の変化
社会・くらし	<ul style="list-style-type: none"> ◇所得の低下 ◇社会的つながりの喪失や自殺者の増加の懸念 ◇感染者や医療従事者等に対する人権侵害事象の発生 ◇長期間の休校 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社会全体のデジタル化の加速 ◆新しい生活スタイルや意識の変化 ◆健康意識の高まり ◆持続可能なより良い社会をめざす国際的なグリーンカバリーの議論 ◆ゆとりある都市空間へのニーズの高まり
東京一極集中リスク	<ul style="list-style-type: none"> ◇東京を中心とした感染拡大による日本全体の経済機能の低下等の懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国等における東京一極集中リスクの是正議論の活発化（一極集中から多極型へ） ◆東京からの人口流出

【まちづくり・インフラ】

- 高速道路ミッシングリンクの解消（淀川左岸線）、なにわ筋線、リニア・北陸新幹線等の広域交通インフラの整備・計画
- 3空港一体運用（関西エアポート(株)による実質的な一体運営）
- 府市港湾管理の一元化（大阪港湾局の設置）
- スーパーシティ構想（内閣府）
- SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取組み
- 地球規模の環境問題（海洋プラスチックごみ、大規模水災害など気候変動による影響への対応）
- 2050年カーボンニュートラルに向けた更なる省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用への取組み 等

【行政運営】

- 機関等の共同設置、一部事務組合等による広域連携の進展
- 広域計画の策定に取り組む自治体の増加
- 新たなエリアマネジメント制度の創設（大阪版BID制度の創設）、パークマネジメントの広がりなど、官民連携が促進
- 空港運営やインフラ管理へのコンセッション導入 等



出典：国際連合広報センターウェブサイト

2. 大阪広域バイエリアを取り巻く状況等

■大阪広域バイエリアの現状

大阪広域バイエリアには、様々なエンターテインメント施設等のにぎわい施設や歴史・文化資源、自然環境や魅力的な景観など、多様で多彩な地域資源があり、これらのポテンシャルをいかしたまちづくりを進めることが重要

【観光・にぎわい】

<ポテンシャル>

- 広域から人が集まるエンターテインメント施設や商業施設が多数立地
- 世界遺産（百舌鳥・古市古墳群）や日本遺産など、歴史・文化資源や自然海浜、夕陽ビュースポットなど、地区ごとに特徴ある多様な観光資源の存在
- 音楽フェスティバル等のイベントやだんじり等の祭の開催
- 大規模なイベントが開催可能なゆとりのあるエリア
- 宿泊税活用による受入環境整備、魅力づくり・プロモーションの推進
- 自治体と観光関係団体等の連携による観光施策の推進
- プロからアマチュアを対象とした多様な競技のスポーツ施設の集積
- 大型クルーズ客船等の寄港の増加 等

<課題>

- 宿泊施設は新設されてきているラグジュアリーホテルが少ない
- 多言語化など、外国人の受入環境が充足していない
- 食の消費額が世界の観光都市に比べて低い
- ナイトカルチャーの更なる充実
- 府域・広域の周遊環境の更なる向上 等



出典：大阪市ウェブサイト



出典：大阪広域環境施設組合ウェブサイト



出典：大阪ミュージアム登録物



出典：大阪府ウェブサイト



出典：J-GREEN 堺ウェブサイト

【産業】

<ポテンシャル>

- 堺泉北臨海工業地帯や主要な港湾
- 日本有数のオンリーワン企業や刃物、線香、タオル等の地場産業
- 大規模太陽光発電など、再生可能エネルギー関連施設の立地
- 先進的、高度技術を有する企業の集積
- 大阪産（もん）など、ブランド力のある農林水産業 等

<課題>

- 第4次産業革命への早急の対応が必要
- 産業用地の不足
- 駅前商店街など、既存商業エリアの活性化
- 大阪産魚介類の認知度の向上 等



【環境（海辺環境・生活環境）】

<ポテンシャル>

- 大規模な緑地、府民・NPO・企業による「共生の森」づくり
- 人工干潟や砂浜、礫浜造成が進む、貴重な自然海岸の保全
- 魚釣施設・海水浴場・マリーナ・海浜公園等の海洋性レクリエーション施設の集積
- 様々な民間団体による大阪湾環境再生に向けた取り組み 等

<課題>

- 湾奥部に栄養塩類が過度に偏在
- 更なる緑地・公園の利活用や身近な海辺空間の確保
- 気候変動による影響が顕在化 等



(イメージ図)

出典：大阪府ウェブサイト



出典：大阪ミュージアム登録物

2. 大阪広域バイエリアを取り巻く状況等

【インフラ（アクセス）】

<ポテンシャル>

- 高速道路や3空港と近接した高い広域交通アクセス性
- 万博等を契機とした夢洲アクセスの強化、海上アクセス需要の高まり
- 夢洲と淀川や大阪市内河川とを結ぶ舟運の気運の向上
- 関西と西日本を結ぶ複数のフェリー航路
- 泉州地域沿岸部を南北に縦断する鉄道路線 等

<課題>

- 内陸部の中心市街地からの交通アクセス性が低い
- バイエリア間の連絡・周遊性が低い
- 鉄道駅や背後住宅地からのウォークアブルなアクセスが不足
- バイエリアを楽しみながら移動する交通手段が不足 等



出典：大阪IR基本構想

【土地利用・水面利用】

<ポテンシャル>

- 大規模な土地造成が進行
- 多様なニーズに対応可能な広大な用地（大規模街区の形成）
- 港内の水面利用に適した静穏海域
- 将来的な廃棄物処分場、建設残土等の受け入れの可能性 等

<課題>

- 低未利用地の活用や土地利用転換が進まないエリア 等



【バイエリアに関する府民意識】

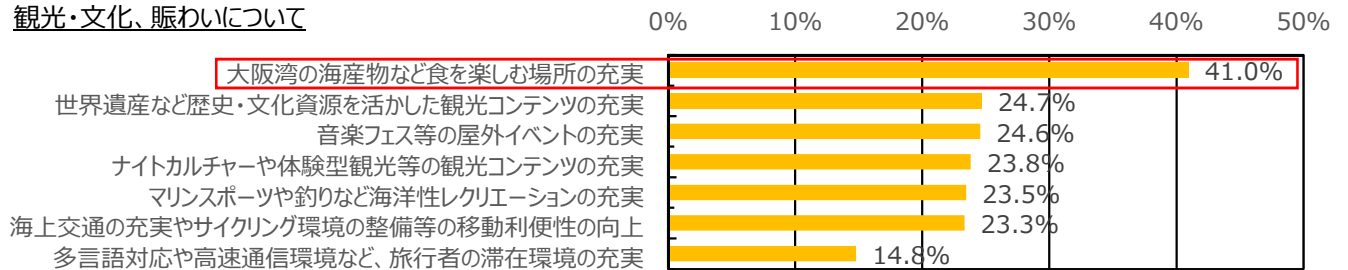
大阪府民を対象に、ウェブシステムを使用した無作為抽出によるアンケート調査を実施。

（実施時期：令和2年12月、回答数：N=1,000）

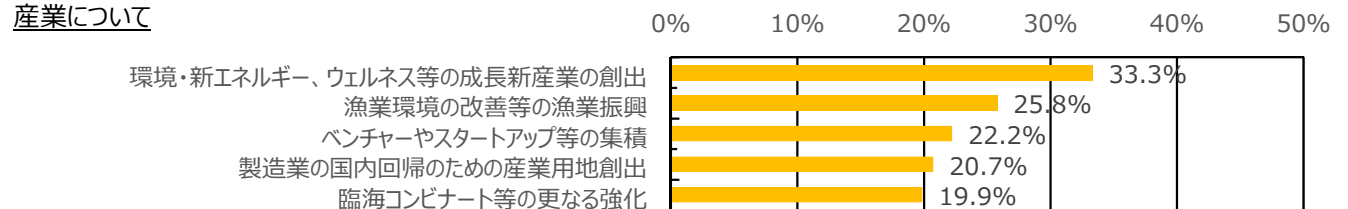
<バイエリアが将来どのようになればよいと思うか（N=810）>

- 大阪湾の海産物など食を楽しむ場所の充実や公園等のゆとりある空間の充実を望む割合が高い。

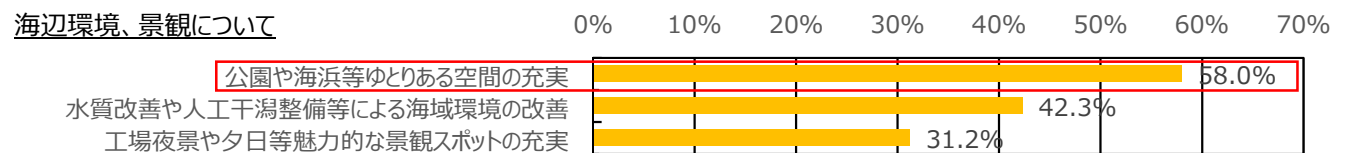
観光・文化、賑わいについて



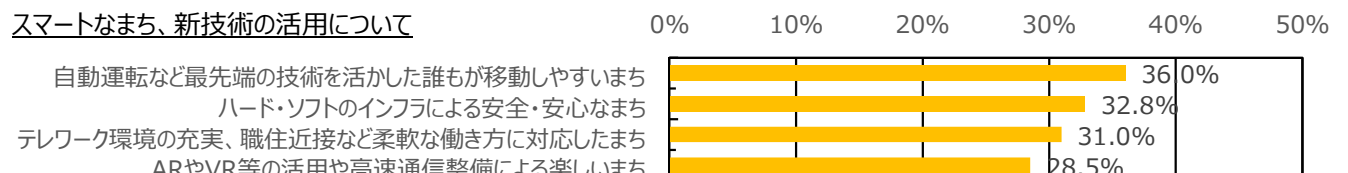
産業について

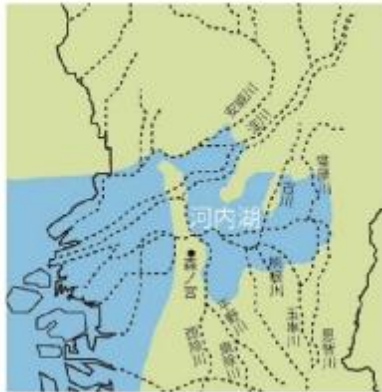


海辺環境、景観について



スマートなまち、新技術の活用について





弥生時代後期
～古墳時代前期



江戸時代～明治時代
約400年～120年前



現代



大阪湾奥部における埋立状況
出典：環境省ウェブサイト

○ 古代

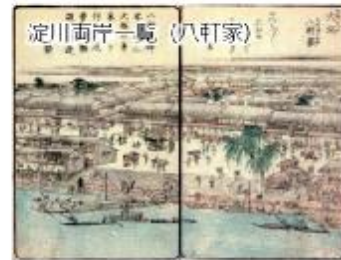
およそ2万年前は、大阪湾は陸地でしたが、海水面上昇により海岸線が形成され、縄文時代前期になると河内湾ができ、弥生時代中期にお河内湖となりました。古墳時代に入ると、中国大陸や朝鮮半島との貿易が始まり、難波津は古代日本の玄関口としての役割を果たし、大阪は外交・交通の中心地として発展しました。

仁徳天皇陵古墳



○ 中世～近世

中世の大阪平野には川が縦横無尽に流れており、大阪は「水の都」として発展し続け、16世紀に入ると南蛮船や朱印船等が往来し、対外貿易の中心となりました。江戸時代には、菱垣廻船や北前船等が寄港し、全国から大阪に集まった物資や物産は京の都へ、都の文物は大阪へと運ばれるなど、「天下の台所」として栄えました。また、大阪湾は飼料生物が豊富で、茅渚の海と呼ばれるほど生産性の高い好漁場でした。



出典：堺市立図書館

○ 明治～昭和

昭和初期までの大浜や浜寺は、白砂青松が広がる美しい海岸が広がり、海水浴や潮干狩りなどの行楽客でにぎわい、水族館や潮湯などが立地する一大リゾート地でした。

大浜大栈橋より潮湯を望む



出典：堺市立図書館

浜寺海水浴場のにぎわい



出典：大阪府営公園デジタルアーカイブス

○ 昭和～令和

昭和には、臨海工業地帯が造成され、室戸台風やジェーン台風、第2室戸台風など、幾度もの高潮被害を乗り越え、防潮堤等の海岸保全施設が整備進められました。また、平成に入ると、舞洲や咲洲などの人工島での土地利用が進み物流機能が強化されるとともに、関西国際空港が開港し、近年大型クルーズ客船が寄港するなど、西日本のヒト・モノの玄関口となっています。

大阪港



出典：大阪市ウェブサイト

関西国際空港



出典：泉南市ウェブサイト

3. 大阪広域バイエリアがめざす姿と取組みの方向性

■大阪広域バイエリアがめざす姿

【今後のバイエリアのまちづくりを進める視点】

これまでのバイエリア開発の課題等も踏まえ、水辺等の地域資源を有効活用し、背後地域との連携やバイエリア相互のつながりを深める必要がある。また、更なる公民連携を促進し、民間の動きに機動的に対応するとともに、ニーズに応じた段階的な整備など、時間軸の視点を持って取組みを進める必要がある。

そのため、「海」という内陸部にはない立地特性や各地域の歴史的な背景を踏まえ、それぞれが持つ多様な地域資源を連携・利活用することにより、バイエリア全体の魅力を高めることが重要。

民間の活力を最大限に引き出しながら、ウィズコロナ・ポストコロナへの対応も見据えて取組みを進めることで、更なるにぎわいの創出、産業の活性化を図り、定住人口や交流人口、関係人口の確保、大阪・関西の発展に寄与していく。

【2050年の大阪広域バイエリアがめざす姿と取組みの方向性（イメージ）】

《コンセプト》

CRESCENT-LINK OSAKA-BAY

クレセント リンク・おおさかベイ

大阪湾を舞台に、最先端技術、由緒ある歴史・文化と豊かな自然が調和し、
世界とつながるヒト・モノ・コトの交流と成長

《めざす姿》

世界中の人をひきつける
文化・観光エリア

世界とつながり新たな価値を
生み出す産業エリア

様々な恵みとるおいをもたらす
海辺環境エリア

誰もが安全・安心で快適に活動できるスマートなまち

《めざす姿の実現に向けた取組みの方向性》

地域資源・既存ストックの利活用
“みかく”

隣接府県・西日本等との連携
“広げる”

地域資源等の連携・ネットワーク化
“つなぐ”

人や組織、事業等の育成
“育てる”

『CRESCENT-クレセント』

「三日月形のもの」「（月が）次第に満ちる・成長する」などの意味
大阪の臨海部の形状が三日月形であり、未来に向かい成長していく様を表す

『LINK-リンク』

「つなぐ」「きずな」などの意味
多様なヒト・モノ・コトがつながる様やその場を表す

3. 大阪広域バイエリアがめざす姿と取組みの方向性

【2050年の大阪広域バイエリアがめざす姿】

<世界中の人をひきつける文化・観光エリア>

- 世界第一級のエンターテインメントと大阪・関西の歴史・文化が融合した国際観光拠点に国内外から多数の人が来訪
- 新鮮な海産物や農産物など、四季折々の多様な“食”を提供
- 多様なサービスにより、1日中バイエリアの魅力を楽しみながら滞在
- バイエリアのスポーツ施設や広場で、国際的なスポーツ大会やイベントが一年中開催
- 海上交通やエアモビリティにより日本各地を自由に往来
- 観光船や自転車により、季節ごとに変化するバイエリアの魅力を楽しみながら周遊 等

《取組みイメージ》



IRを核とした新たな国際観光拠点の形成



百舌鳥古墳群やだんじりなど歴史・文化資源や伝統的な祭りを活かした交流拠点の形成



シラスや牡蠣など地域の特徴ある農水産物を活用した食の魅力創出



バイエリアの立地特性を活かした多目的広場の活用（大規模イベントの開催等）



大阪湾内や瀬戸内海等の拠点を結ぶ観光ルートの形成



バイエリアの景色を楽しむサイクルルートの形成

<世界とつながり新たな価値を生み出す産業エリア>

- 高付加価値製品・サービス等を世界に供給
- アジアビジネスと融合した新産業や最先端の物流拠点が大阪・関西の成長をけん引
- 世界水準の質と規模を備えたMICE施設において内外から人が集まる国際会議や展示会等を開催
- 関西国際空港と近接した立地を活かし、ブランド力のある農水産物（大阪産（もん）等）を世界に供給 等

《取組みイメージ》



大阪・関西の成長を牽引する高付加価値製品等の供給拠点の形成



成長著しいアジアとのビジネス交流・交易拠点の形成



AI等を活用したターミナルの効率化・最適化

出典：経済産業省ウェブサイト



世界水準のMICE施設の誘致



関西国際空港における大阪産（もん）や地域ブランドの農水産物の輸出強化

3. 大阪広域バイエリアがめざす姿と取組みの方向性

<様々な恵みとつらおいをもたらす海辺環境エリア>

- 水辺やみどりを活かした良好な景観や居心地のよい親水空間の形成
- ゆとりある空間により、健康長寿を支え、ワーケーションなど、様々なライフスタイルに対応した場を提供
- 多様な生物が生息する良好な海域環境の形成
- 豊かな“食”を支える、豊富な魚介類が獲れる漁場環境の形成
- 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現
- ブルーカーボンの創出により、2050年カーボンニュートラルを促進 等

《取組みイメージ》



海を感じることができる親水空間の形成や賑わい施設との連携



海に沈む夕陽を楽しむ空間の形成



居心地の良い滞在場所や通信環境などワーケーションに対応した環境整備



「豊かな大阪湾」の実現
(多様な水際線・人工干潟の整備など)



海洋プラスチックごみ対策等の推進



藻場造成などによる地球温暖化対策の推進

<誰もが安全・安心で快適に活動できるスマートなまち>

- Society5.0の実現により、新たな価値が創造され、誰もが快適に過ごせるまち
- 空飛ぶクルマなど多様な交通モードによるシームレスなサービスにより誰もがエリアの内外を自由に移動
- 再生可能エネルギーの大幅な利用拡大やエネルギー利用の効率化等によるCO2フリーのまち
- 命や財産を守るハード・ソフトのインフラにより、安全・安心が確保されたまち
- 様々な社会変化やリスクに対応できる多様性・強靭性を備えたまち 等

《取組みイメージ》



サイバー空間とフィジカル空間が融合した楽しいまちづくり



MaaSプラットフォーム、都市OSの構築



水素を用いたモビリティの導入
メガヨット受入環境を整えた寄港地の確保

出典：岩谷産業㈱提供



再生可能エネルギーの最大限の活用



新技術の活用等による回遊性の向上

出典：経済産業省ウェブサイト



堤防・水門等の耐震・液状化対策

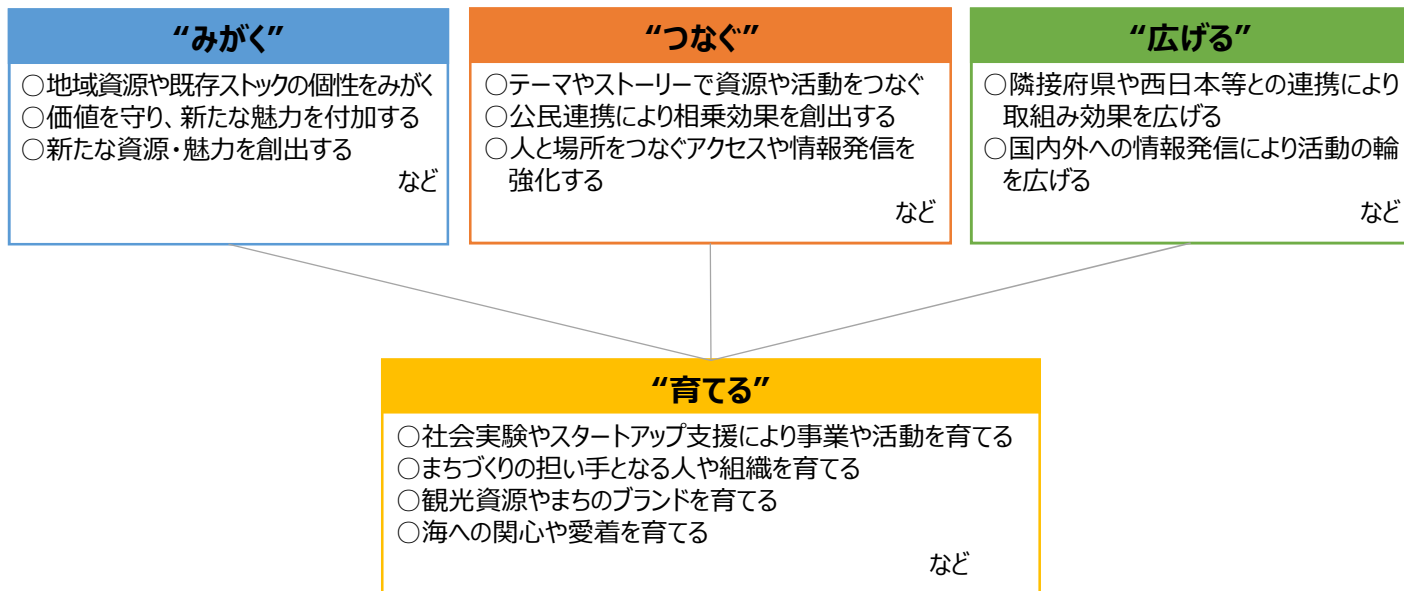
出典：みなとビジョン

3. 大阪広域バイエリアがめざす姿と取組みの方向性

■ 取組みの方向性

各地域の特徴を活かしながら、それぞれが持つ多様な地域資源やストックを**“みがく”**とともに、**“つなぐ”**、**“広げる”**取組みを進め、個々の相乗効果を高めることで、大阪広域バイエリア全体の魅力を高める。

また、大阪広域バイエリアがめざす姿の実現に向け、新たな事業や活動が継続的な取組みとなるよう、公民が連携した初動期の支援や担い手の育成など、**“育てる”**取組みを進める。



3. 大阪広域バイエリアがめざす姿と取組みの方向性

「大阪広域バイエリアがめざすべき姿」の実現に向け、「みがく」、「つなぐ」、「広げる」、「育てる」取組みについて、順に示す。なお、「みがく」取組みについては下図の5つの地区ごとの取組みを示すとともに、既にまちづくりが進んでいるエリアや今後更なる活性化が期待されるエリアのうち、特に重点的に取組むエリア（重点エリア）を示すものとする。

<取組みのイメージ（みがく、つなぐ、広げる）>



地域資源・既存ストックの活用 “みがく”

【大阪湾】
産業（漁業振興、大阪産（もん）の活用）の活性化、大阪湾環境再生
「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現

【大阪～堺地区】
主に、先端技術と歴史文化、海辺環境を活かした、国際観光・交流の促進、スマートなまちづくりの促進

【堺泉北地区】
主に、産業（重化学工業・物流等）の国際競争力の強化、都市ストックを活用した交流機能の向上

【岸和田～泉佐野地区】
主に、公共空間を活用した観光・交流・集客機能の向上、多様な産業（製造業、水産業等）の振興

【関空・りんくう地区】
主に、空港との近接性を活かした、ウォーターフロントのにぎわい創出・国際交流の促進

【阪南～岬地区】
主に、海洋性レクリエーション・自然環境保全による憩い・癒しの創出、港を拠点とした回遊性・アクセス性の向上

4. “みがく”取組み

■主な取組み

【取組みの方向性】

大阪広域バイエリアにある多様で多彩な地域資源や既存ストックの個性をみがくとともに、新たな資源や魅力を創出する取組みを進めることで、各地域の個性を活かしたまちづくりを促進する。

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- オンリーワンのエンターテインメントや世界遺産をはじめとした歴史・文化資源の活用による国際的な観光拠点の形成
- 大規模な緑地やスポーツ施設を活用し、国内外から人が集まるイベントや国際的なスポーツ大会の誘致
- オール大阪でのクルーズ客船誘致を進めるとともに、乗客の大阪府域全体への訪問促進
- ナイトカルチャーの充実強化、食の魅力創出など、旅行者ニーズに配慮した多様なサービスの提供
- 漁業体験など、地域資源を活用し魅力を深く体感・体験できる着地型観光の促進
- 多言語化やネットワーク環境の充実、利用者ニーズに応じた宿泊機能の導入促進など、旅行者の受入環境の整備促進
- 民間活力の導入による公園・緑地の活性化
- 漁港をにぎわい創出の拠点とし、府民と漁業者の交流空間として取組みを推進
- 朝市や体験漁業などの観光漁業の取組みを促進し、にぎわいを創出 等



出典：堺市提供



出典：J-GREEN 堺ウェブサイト



出典：泉南市提供

<産業>

- 国際コンテナ戦略港湾（阪神港）の取組みの推進
- 物流拠点としての更なる機能強化
- IoTの活用や共同化の促進により、コンビナートの国際競争力の強化
- 環境や新エネルギー等の成長新産業の創出
- 高付加価値製品・サービス等の供給拠点の形成
- 低未利用地を活用したサプライチェーンの確保や製造業の国内回帰への対応
- 海底耕耘など漁業環境の改善、都市型漁業の推進
- 地場産品や大阪産（もん）等の海外輸出を促進
- 新技術の活用により人手不足の解消
- 新鮮で安全安心な地場水産物の地産地消の促進
- 地域の特徴ある農水産物を活用した食のブランド化の推進と魅力ある特産品の創出
- 体験漁業を通じた漁業の魅力発信と後継者の育成 等

大阪の農林水産物



出典：大阪府ウェブサイト

<環境・景観>

- 水がきれいで、生き物がすみやすく、暮らしに潤いを与えてくれる「豊かな大阪湾」の実現（水質改善や多様な水際線・人工干潟の整備など）
- 空間的にゆとりのある公園・緑地を活用したイベントの開催やレクリエーションの提供
- 海を感じることができる、水際と一体となった親水空間の形成
- 海岸や公園・緑地などの水と緑に触れることのできる自然環境の維持・保全と住民の憩いの場としての活用
- 都市部では世界的にも稀有な西に開けた地形を活かし、海に沈む夕陽を楽しむ空間を形成
- 工場夜景や歴史的な街並み、みどりや自然海浜など地域特性に応じた景観の保全・創出・活用
- 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現を見通しつつ、海洋プラスチックごみ対策を推進
- 環境美化活動やアドプト・プログラム参加に向けた周知・啓発
- 水素を用いたモビリティの導入やブルーカーボンを生成する藻場の造成等による地球温暖化対策を推進 等



出典：国土交通省近畿地方整備局



出典：大阪ミュージアム登録物



出典：高石市提供

4. “みかく”取組み

くまちづくり・インフラ

- 先端技術を活用し、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）が融合した楽しいまちづくり
- 親水護岸等と一体となったにぎわい空間の形成
- ウォーターフロントの豊かな魅力を活かした快適な居住空間の形成
- 居心地の良い滞在場所や通信環境など、ワーケーションに対応した環境の整備
- 寄港地、停泊地や船着場周辺のにぎわい創出・魅力向上
- メガヨット等の受入環境を備えた寄港地の確保
- 民間ノウハウを活かした公共空間の整備
- 社会情勢の変化に応じたベイエリアの公共用地・公共施設や低未利用地、静穏海面等の有効活用
- 内陸部の市街地等、背後地域との連携による地域魅力の向上
- 地域の特性や将来需要に応じた大胆な土地利用の再編
- 再生可能エネルギーの最大限の活用
- 一定のエリア内でのエネルギーの融通・共同利用を行う面的利用の促進
- 建設残土・浚渫土砂・産業副産物等の活用による土地造成や干潟造成等の環境再生創造 等



最先端技術を使った
魅力的な屋外ショー



ウォーターフロント（イメージ）

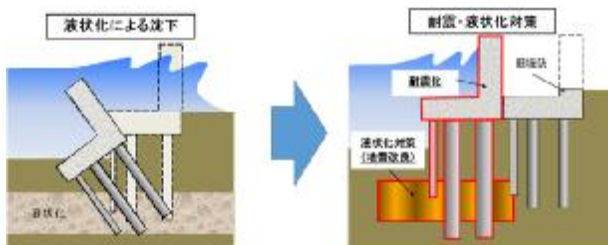


ワーケーション（イメージ）

出典：大阪IR基本構想

「総合的な防災対策」（大阪“みなと”ビジョンより抜粋）

- 堤防等の耐震・液状化対策
- 埋立地における浸水対策
- 沿岸市町における高潮対策（タイムラインの作成等）
- 堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点の機能強化



【耐震・液状化対策のイメージ図】



水門



防潮堤

出典：みなとビジョン

「新型コロナウイルスの影響を踏まえた取組み」

- テレワーク導入などICT化の促進、職住機能の近接、ワーケーションに対応した環境整備など、多様な働き方を実現
- バーチャル空間における魅力発信など、先端技術を活用した都市魅力の発信創出
- 周辺住民をターゲットとした観光資源の活用や府域周遊の促進など、多様性のある観光施策の推進
- オンラインを活用した新たな地域のつながりの創出、関係人口増大に向けた施策の推進
- 新しい生活スタイルにも配慮した都市・地域づくりや住環境の整備
- 歩行空間やサイクルロードの整備など、環境や人々の健康にも配慮された地域のまちづくりの推進
- 自転車や徒歩で回遊できる空間など、安全快適でゆとりある都市空間の創出（臨海部緑地等の活用）
- 非常時を想定したクルーズ客船の受入環境の整備
- リスク分散を図り、事業継続性を確保するためのサプライチェーンの複線化（国内の製造拠点の確保）



テレワーク（イメージ）



自転車や徒歩で回遊できる空間
（イメージ）



ゆとりある都市空間（イメージ）

出典：厚生労働省ウェブサイト

出典：泉南市提供

4. “みがく”取組み

■大阪～堺地区の取組み

【現状・ポテンシャル】

<観光・にぎわい>

- 夢洲において、2025大阪・関西万博の開催が決定、IR誘致に向けた取組みが進行
- 大規模なテーマパークや水族館等の集客施設が立地するとともに、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されるなど、大阪有数の観光地として国内外から観光客が来訪
- 舞洲のプロスポーツチーム拠点や堺浜のサッカー・ナショナルトレーニングセンター等が立地し、大浜公園にはVリーグ等が開催可能なアリーナが整備
- 徒歩で海へアクセス可能な堺駅の背後地には、環濠や町家、百舌鳥古墳群等の歴史文化資源が集積
- 天保山には多くのクルーズ客船が寄港し、集客施設をつなぐシャトル船や大阪港を周遊する観光船が運航 等



出典：地理院タイルを加工して作成

<産業>

- 製造業等の大規模工場や物流施設等が多数立地し、多種多様なものづくり企業等が集積
- 近年では、成長期待の高い環境・新エネルギーなど、先端技術開発に資する研究開発機能が集積
- 国際コンテナ戦略港湾や国際拠点港湾として物流拠点が形成
- 堺内陸部には、堺打刃物をはじめとする伝統産業が集積。歴史的なまちなみを有する環濠エリアには伝統産業の情報発信拠点として「堺伝統産業会館」が立地 等

<環境・景観>

- 咲洲において、みどり豊かなまちなみとキャナルのあるアメニティ豊かなまちなみに宿泊・居住機能が集積
- コスモスクエア海浜緑地、舞洲緑地、大阪南港野鳥園、堺浜の海とのふれあい広場等の大規模な緑地が整備
- 堺浜では、生物多様性の保全、再生の場であり、ビーチバレーが楽しめる人工海浜として自然再生ふれあいビーチが整備
- 堺旧港では親水護岸を整備 等

<まちづくり・インフラ>

- 夢洲をはじめ、天保山や舞洲・咲洲、此花西部、堺浜や堺駅・堺旧港など、それぞれ特徴のあるまちづくりが進められ、ベイエリア全体の活性化を図っていくうえで、高いポテンシャルを有する地区が複数存在
- 大阪～堺の内陸部では、新大阪から堺・堺東への南北方向と、大阪都心からベイエリアへの東西方向に、経済・産業・文化等の多様な都市機能が集積した拠点が形成 等

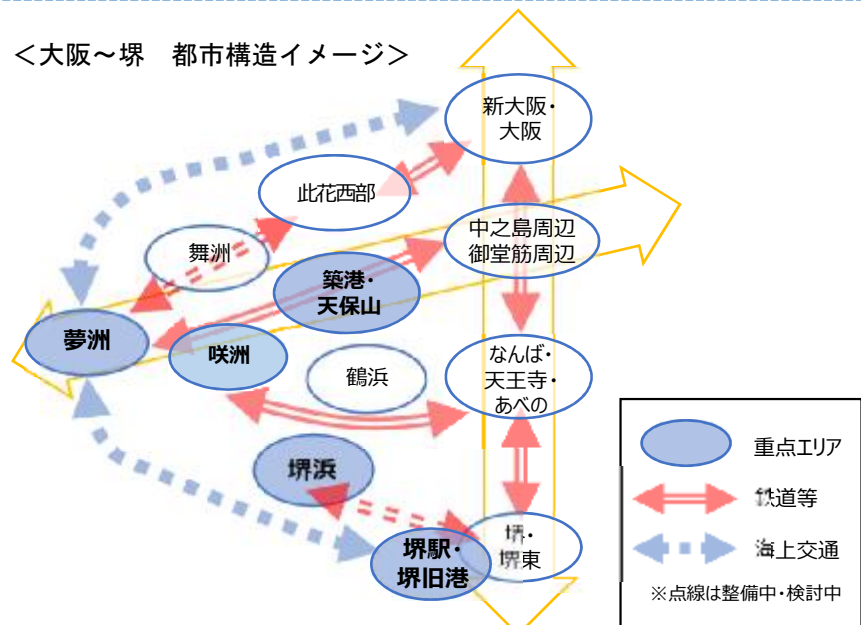
【取組みの方向性】

「海の玄関口」として、夢洲のまちづくりや社会の動向を捉え、「水の都大阪」を象徴する都市景観、エンターテインメント施設、歴史・文化資源、豊かな観光資源等を効果的に連携・活用し、内陸部の各拠点とベイエリアが一体となった国際観光・交流拠点を形成する。

また、海辺のレクリエーション拠点として魅力のあるウォーターフロントを形成するとともに、先端技術を活用したスマートなまちづくりを促進する。

あわせて、地域や企業の立地ニーズに対応した適切な土地利用を誘導し、産業・業務機能の強化を図る。

<大阪～堺 都市構造イメージ>



4. “みがく”取組み

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- IRを核とした新たな国際観光拠点の形成
- 百舌鳥古墳群等の歴史資源、観光・文化資源を活かした交流拠点の形成
- 堺浜の海辺のレクリエーション拠点化
- 内陸部の伝統産業の集積地域への誘導 等

<産業>

- 世界水準の質と規模を備えたMICE施設の誘致
- AI等を活用したターミナルの効率化・最適化
- VRやICTを活用したショーケース機能の導入
- 環境・新エネルギー・医療・介護など研究開発機能の集積
- 成長著しいアジアとのビジネス交流・交易拠点の形成 等

<環境・景観>

- 堺2区人工干潟の造成
- 優れた眺望景観・夜間景観の創出、海から見える魅力的なまちなみの形成 等

<まちづくり・インフラ>

- 堺旧港周辺、環濠エリアの歴史文化資源等を活かしたまちづくり
- 最先端の技術を活用したスマートなまちづくり
- 背後地域が有する地域資源の活用、堺東駅及び堺駅の周辺エリアとの連携による地域魅力の向上
- 舞洲や堺浜等のスポーツ施設と連携したスポーツ振興による活性化
- 海につながる河川の舟運環境整備
- 港湾機能が低下した在来臨海部の土地利用検討
- クルーズ客船の母港化に向けた機能強化
(PFIによる客船ターミナルの整備・維持管理等、非常時の受入環境の整備) 等



出典：堺市提供



出典：大阪市ウェブサイト

堺旧港親水護岸



出典：堺市提供

アジア太平洋トレードセンター



出典：大阪市ウェブサイト

天保山客船ターミナル



出典：大阪市ウェブサイト



4. “みかく”取組み

【重点エリア】

<夢洲・咲洲>

- 大阪の成長をけん引するIRを核とした新たな国際観光拠点の形成
- 大阪の成長を支える国際物流拠点の充実
- ベイエリアの各地区との連携によるさらなる経済振興・都市魅力の向上



夢洲

「夢洲まちづくり基本方針」

○コンセプト

SMART RESORT CITY

～夢と創造に出会える未来都市～

「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取り組みによって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。

○土地利用の方針

第1期 統合型リゾートを中心としたまちづくり

第2期 万博の理念を継承したまちづくり

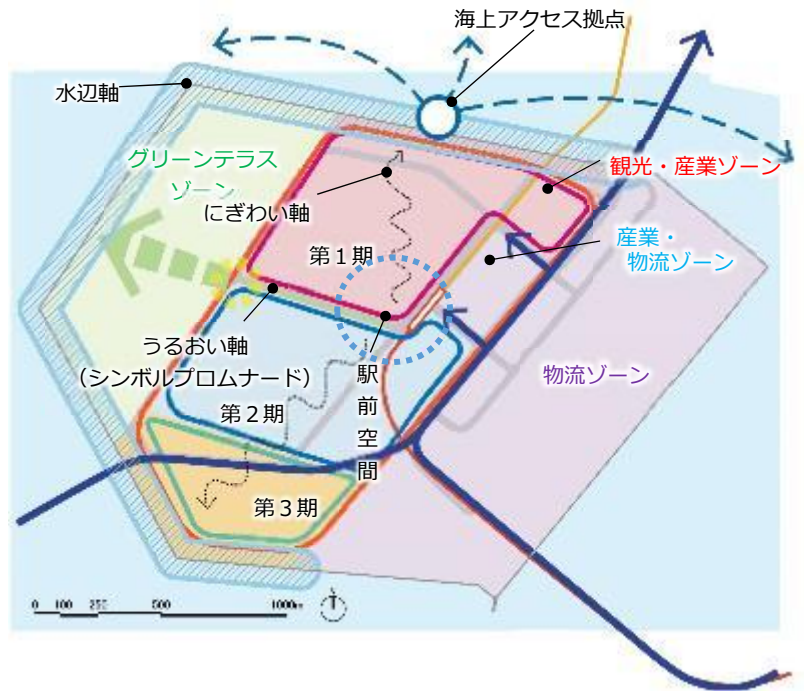
第3期 第1・2期の取組みを活かした長期滞在型のまちづくり

○インフラ等の整備方針（海上アクセス拠点）

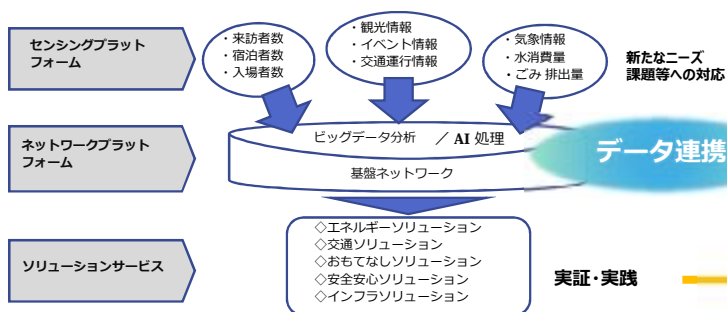
閑空はもとより、多くの他のエリアからのアプローチを可能とする海上アクセス拠点を、臨港緑地との一体性に配慮しながら北側水際線に整備

○スマートなまちづくり

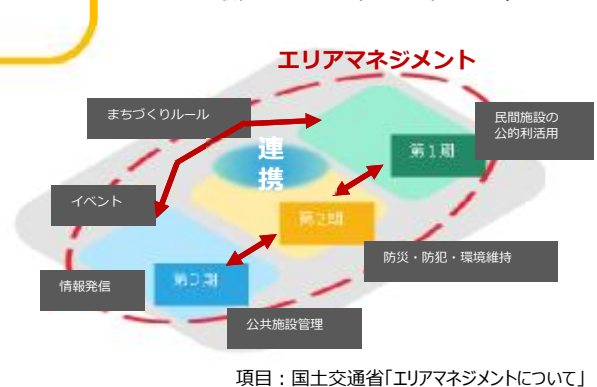
最先端のスマート技術やエリアマネジメントにより、緊急時には行政とも速やかに連携できるよう平時から取組みを進め、安全・安心なまちを実現



■取組みイメージ（ICT活用）



■取組みイメージ（エリアマネジメント）



項目：国土交通省「エリアマネジメントについて」



咲洲

出典：画像はすべて大阪市提供

4. “みかく”取組み

【重点エリア】

<築港・天保山>

- 民間活力を導入した天保山客船ターミナルの整備と運営
- みなとオアシス大阪港・天保山を拠点とした水辺のにぎわい形成及び様々な社会実験等の取組みの推進
- エリア内の資源を活用した観光集客力の強化と回遊性向上にむけた取組みの推進
- 花の海遊ロード美化協議会の取組みをはじめとした美化修景の取組みの推進
- 天保山公園等の公共空間の利活用の推進
- 港町ならではの居住魅力の発信及び住宅供給の拡大にむけた取組みの推進



「築港・天保山まちづくり計画」

- コンセプト「毎日が宝探し」
- 基本方針
 - 暮らす：自由なライフスタイルの組み立て方を見える化し、発信する
 - 遊ぶ：エリア外からの来訪者の増加、定着を狙う
 - 働く：起業・創業しやすく継続しやすい環境を作る



出典：画像はすべて大阪市提供



クルーズ客船（クワンタム・オブ・ザ・シース）



天保山客船ターミナルの整備イメージ



天保山ハーバーピレッジ



天保山まつり

<堺浜>

世界をリードする産業拠点と海辺を活かした集客・レクリエーション拠点の形成

- 成長産業分野への進出、先端技術の研究開発など、企業の競争力を高める投資を促進
- 海とのふれあい広場や人工干潟、人工海浜などを活かし、海を楽しみ憩える親水空間の形成
- 未利用地の活用（商業、アミューズメント機能等の導入）
- 臨海部と堺市の都心地域とをつなぐ交通ネットワークの機能を強化
- 大阪ベイエリア・関西国際空港方面などへの海上アクセスの構築
- （仮称）大和川サイクリンによるアクセス性の向上
- 回遊性の向上（サイクル、モビリティ）
- 海辺環境の改善（北泊地の浅場化）
- 脱炭素型・循環型産業への転換を促進
- J-GREEN 堺との相乗効果による、スポーツ・レクリエーション機能等の集積及びスポーツ観光の促進
- 耐震強化岸壁（水深-10m）の整備（安全安心の確保、大型観光客船の受入）



海上交通のイメージ



出典：国土交通省ホームページ
(<https://www.mlit.go.jp/common/001297333.pdf>)

サイクル・モビリティイメージ



出典：国土交通省ホームページ
(<https://www.mlit.go.jp/common/000212867.pdf>)
(https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000733937.pdf)



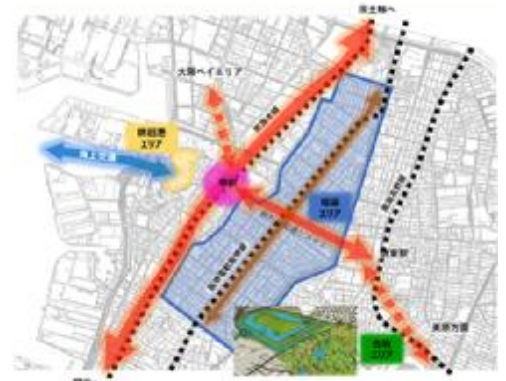
イメージ
マリンレジャーなど、新しい使い方の水辺空間

4. “みがく”取組み

<堺駅・堺旧港>

広域的なアクセス性や、歴史文化・水辺等の資源を活かした国内外から人が訪れる魅力ある交流拠点の形成

- 堺駅周辺において、民間事業者と連携した商業・業務・宿泊などの交流機能の導入
- 堺駅・堺旧港エリアと堺東エリアを結ぶ新たな交通システムの導入などによる交通ネットワークの機能強化
- 人中心のウォークアブルな空間を公民連携で形成し、都市の賑わいや交流の場を創出
- 大浜北町市有地活用事業（交流空間の形成・回遊性の向上）
- 堺旧港親水護岸と周辺の公有地・民有地との一体的な活用によるにぎわいの創出
- 海上交通による大阪ベイエリアとの連携
- 環濠エリアの水辺の魅力創出や、堺旧港の海辺とのネットワーク形成などウォーターフロントへの人の誘導に向けた取組み
- 江戸時代前期の建築「鉄砲鍛冶屋敷」などが残る歴史的なまちなみや環濠エリアを南北に縦断する阪堺線を活かした魅力創造
- 刃物や線香、お茶・和菓子等の伝統産業等の魅力を体感できるような体験型観光
- 百舌鳥古墳群などの歴史文化資源を有するエリアとの連携



環濠の水辺を活かした魅力創出



体験型観光



鉄砲鍛冶屋敷



堺伝統産業会館



堺観濠クルーズ



ターミナル機能などが集積するベイエリア



堺旧港親水護岸の利活用

- （仮称）堺駅・堺旧港周辺活性化ビジョン（案）

堺駅・堺旧港周辺の活性化方針

<活性化コンセプト>

“Mizube”, Re-Design 水辺から始まる都市再生

-堺の歴史を紡いできた水辺から新たな活力を生み出し都市再生を牽引-

歴史文化に根付いた、様々な体験を誘発し、贅沢な時間を過ごす



質の高い住・働・学・遊の場で、地域の豊かな都市生活を育む



陸海空の玄関口として、国内外からの多様な交流を生む



<取組方針>



<段階的シナリオ>



4. “みかく”取組み



夢洲・咲洲



堺旧港

4. “みがく”取組み

■堺泉北地区の取組み

【現状・ポテンシャル】

<観光・にぎわい>

- 泉大津フェニックス等では、音楽フェスティバル等の大規模な野外イベントが開催され、全国から多くの人々が来訪
- オールシーズン利用可能なスケート場や大規模な体育室を備えたスポーツ施設である大阪府立臨海スポーツセンターが立地

<産業>

- 堺泉北臨海工業地帯には、石油化学・エネルギー・鉄鋼・機械工業・物流などの事業所が集積
- 堺泉北港は国内有数の中古自動車の輸出拠点として、オークション会場等が集積するとともに、泉州地域で唯一の九州方面の定期フェリーが就航
- 堺第7-3区では、大阪エコエリア構想に基づき、リサイクル施設や太陽光発電施設が立地

<環境・景観>

- 堺泉北臨海工業地帯は関西屈指の工場夜景スポットであり、観光ツアーやフォトコンテストが催行
- 日本最古の公園の1つである浜寺公園は浜寺水路の両岸に面し、広大な松林とともにバラ庭園やスポーツ施設等が立地
- 旧紀州街道の海側を平行して走る浜街道には、様々な町屋やのこぎり屋根の工場が現存し、新旧の時代が混在する歴史的な景観を形成

<まちづくり・インフラ>

- 堺泉北港には、ロケーションの良いスポットが多数あり、ベイエリア全体の活性化を図れる拠点が複数存在
- 南海本線及び高師浜線の連続立体交差事業にあわせ、浜寺公園駅や羽衣駅、高石駅、泉大津駅等の周辺まちづくりが進行
- 高速道路と鉄道が南北に縦断し広域交通アクセス性が高いが、内陸部とベイエリア間の交通アクセスやベイエリア間の連絡に課題
- 泉北地域鉄道沿線まちづくり協議会において、泉北地域の広域的な都市機能の立地適正化を進めるための検討を実施



出典：地理院タイルを加工して作成

【取組みの方向性】

コンビナートの国際競争力の強化や成長新産業の創出により、産業・業務機能の更なる強化を図る。あわせて、工場夜景など、臨海工業地帯ならではの景観を活かした交流を促進するとともに、大規模な公園・緑地等の都市ストックを活かした交流機能の向上やイベントの開催等によるにぎわいの創出を図る。さらに、快適な歩行者空間の形成や鉄道駅から臨海部へのアクセス強化を図るとともに、高師浜線や臨海部へのアクセス拠点となる鉄道駅周辺のまちづくりを促進する。

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 浜寺公園のばら庭園やプール、交通遊園など個性ある施設を活かしたにぎわいづくり
- 泉大津フェニックス等の多目的広場の観光資源としての活用（イベントや映画ロケの誘致など）
- 泉大津フェリーターミナル利用者の周辺施設への誘導
- 繊維製品製造工場や体験型施設などの見学の促進

<産業>

- 企業立地を促進するインセンティブ等を活用し、臨海企業の新たな投資や企業立地の促進
- 大規模工場の立地の波及効果を活かし、臨海工業地帯としての土地利用を継続・発展
- 泉大津フェニックス等における成長産業の誘致・創出

<環境・景観>

- 共生の森における府民・NPO・企業等との連携によるみどりの形成・保全
- 浜寺水路を活かした親水空間の形成
- 花と緑による快適な歩行者空間ネットワークや都市シンボルロードの形成
- 紀州街道や浜街道など歴史的な街並みの維持・保全のための景観誘導

<まちづくり・インフラ>

- 南海本線・高師浜線連続立体交差化後の駅周辺まちづくりの促進
- 浜寺水路沿いの緑道やスポーツ施設等の機能を活かした臨海部と内陸部を結びつける土地の利活用
- 浜寺水路を活かした周辺エリアのまちづくりの促進（高石市旧市民会館・図書館跡地への集客施設の誘致など）
- 泉大津市市民会館等跡地を活用したまちづくりの促進（アビリティタウン構想の実現）

4. “みかく”取組み



泉大津フェニックス 多目的緑地

出典：大阪府ウェブサイト



忠岡みなとマーケット

出典：大阪府ウェブサイト



浜寺公園駅舎

出典：大阪ミュージアム登録物



大阪府立造船センター

出典：大阪府ウェブサイト



大阪府立臨海スポーツセンター

出典：大阪府ウェブサイト



共生の森植樹祭

出典：大阪府ウェブサイト

4. “みがく”取組み

【重点エリア】

<浜寺水路周辺>

- 南海本線高架化によるウォークアブルな駅周辺整備
- 旧市民会館・図書館跡地へのにぎわい・集客施設の誘致及びイベント実施による賑わいの創出
- 臨海スポーツセンター、漕艇センター、浜寺公園との連携
- 高師浜駅周辺の活性化（駅舎のライトアップ等）
- 高石シーサイドフェスティバルの実施（約4万人集客）
- 高師浜運動施設のリニューアル（スケボーパーク、3X3）



高師浜運動施設リニューアル



旧市民会館・図書館跡の活用



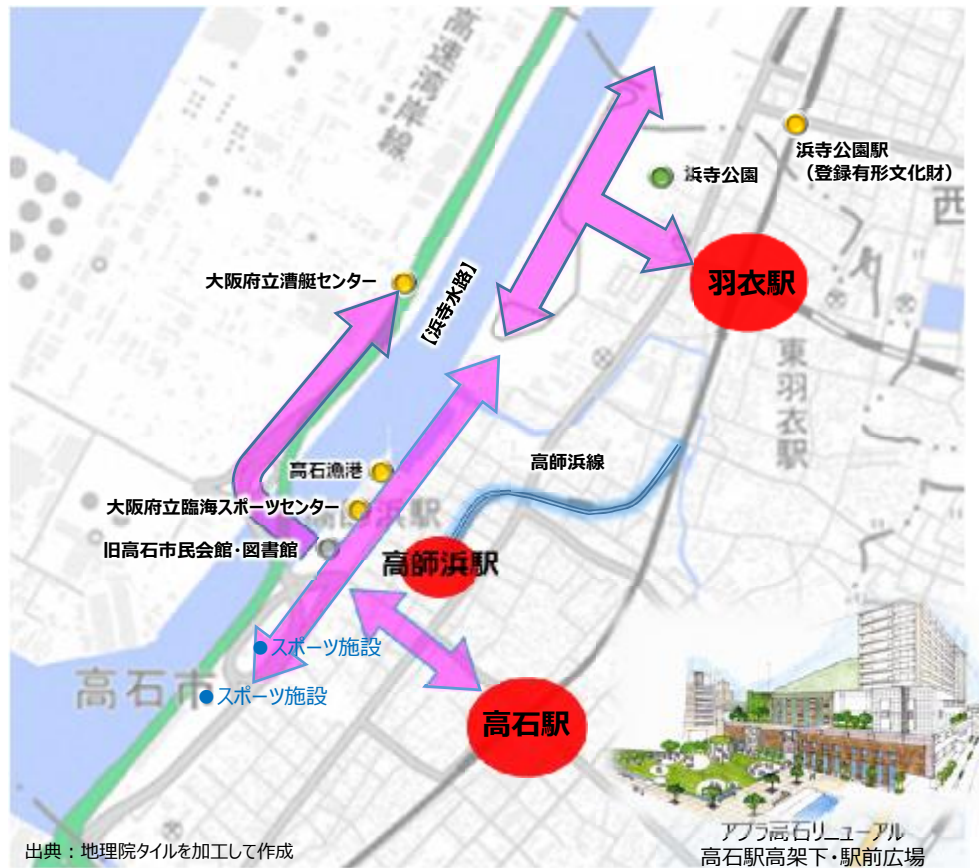
スモールドラゴンボート大会



臨海工業地帯の工場夜景



高石シーサイドフェスティバル



出典：画像はすべて高石市提供

4. “みかく”取組み

■岸和田～泉佐野地区の取組み

【現状・ポテンシャル】

<観光・にぎわい>

- 岸和田市など、だんじり祭りには国内外から多くの観光客が来訪
- 岸和田旧港地区周辺には多目的ホールや複合商業施設等が立地し、スポーツ大会やイベントを実施。地蔵浜地区では、朝市やフリーマーケット等を開催 等

<産業>

- 阪南2区や二色の浜産業団地には、金属、鉄鋼、木材等の多様な製造業が集積
- 魚庭の海づくり大会の開催による漁業への理解促進に向けた取組みが行われるとともに、阪南港地蔵浜地区への水揚げ集約など、大阪湾シラスのブランド化に向けた取組みが進行 等

<環境・景観>

- 二色の浜公園や市民の森など大規模な緑地があり、海浜緑地、海水浴場、スポーツ施設、野外劇場等が立地
- 阪南2区では、砂浜のある親水緑地や人工干潟の整備が進行
- 岸和田城西部の本町地区では城下町としての趣を残す建築物が多数現存し、歴史的まちなみ保全地区に指定
- 願泉寺を中心として形成された貝塚寺内町では石畳の道が整備され、土蔵や格子戸を持つ旧家が建ち並んでいる 等

<まちづくり・インフラ>

- みなとオアシス岸和田では、「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、文化、商業、スポーツ、漁業の融合による湾岸振興をコンセプトとして様々な取組みを実施
- 貝塚駅と水間観音を結ぶ水間鉄道では自転車を搭乗可能なサイクルトレインが運行
- 高速道路ICの近くに将来的に利活用可能な低未利用空間が存在（木材コンビナート貯木場など） 等



出典：地理院タイルを加工して作成

【取組みの方向性】

歴史・文化資源や豊かな水産資源等を効果的に連携・活用し、観光・交流・レクリエーション拠点を形成するとともに、他の地域の多様な資源と連携し、新たな人の動きを作ることで更なる交流を促進する。
あわせて、地域や企業の立地ニーズに応じた適切な土地利用誘導や土地利用転換による産業機能の強化を図る。
さらに、快適な歩行者空間や水間鉄道を活用した臨海部と内陸部をつなぐサイクルルートのネットワーク形成等により、ベイエリア内の回遊性やアクセス性の向上を図る。

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 岸和田旧港地区における多目的ホールを核とする賑わいと潤いのある交流・集客拠点の形成
- 二色の浜海水浴場等の海洋レクリエーション資源を活用した観光と交流の促進
- スポーツを通じた企業や民間事業者、地域団体等の交流促進、地域活性化、産業振興につながる取組みの促進
- 地蔵浜みなとマルシェ等、にぎわい拠点としての取組みの促進 等

<産業>

- 国際流通機能を活かした工業・業務の活性化
- 阪南2区（ちきりアイランド）等の埋立地を利用した新たな業務拠点の形成
- 大阪産（もん）やしらす等の地域ブランドに指定された魚介類や農作物等を活かした食の打ち出し
- 泉佐野食品コンビナートなど、食品関連の生産・流通機能の充実 等

<環境・景観>

- 阪南2区人工干潟による水質浄化機能の向上、生物の生息空間の創出
- 二色の浜産業団地の緑化促進
- 紀州街道につながる歴史的街並みの保全活用 等

<まちづくり・インフラ>

- 大規模店舗のリニューアル等を契機としたまちづくりの促進
- 鉄道駅から臨海部の公園等へのアクセス強化
- 寺内町や旧家住宅、岸和田城など地域文化財を活用した地域づくりの促進と連携
- 木材コンビナート貯木場において、埋立も視野に入れた今後の利活用について検討 等

4. “みがく”取組み

岸和田カンカンバイサイドモール



出典：岸和田市ウェブサイト

阪南2区人工干潟



出典：大阪府ウェブサイト

近木川干潟再生地



出典：貝塚市提供

岸和田城



出典：岸和田市ウェブサイト



出典：地理院タイルを加工して作成

二色の浜海水浴場



出典：貝塚市ウェブサイト

南海浪切ホール



出典：岸和田市ウェブサイト

貝塚市立ドローン・クリケットフィールド



出典：貝塚市提供

市民の森



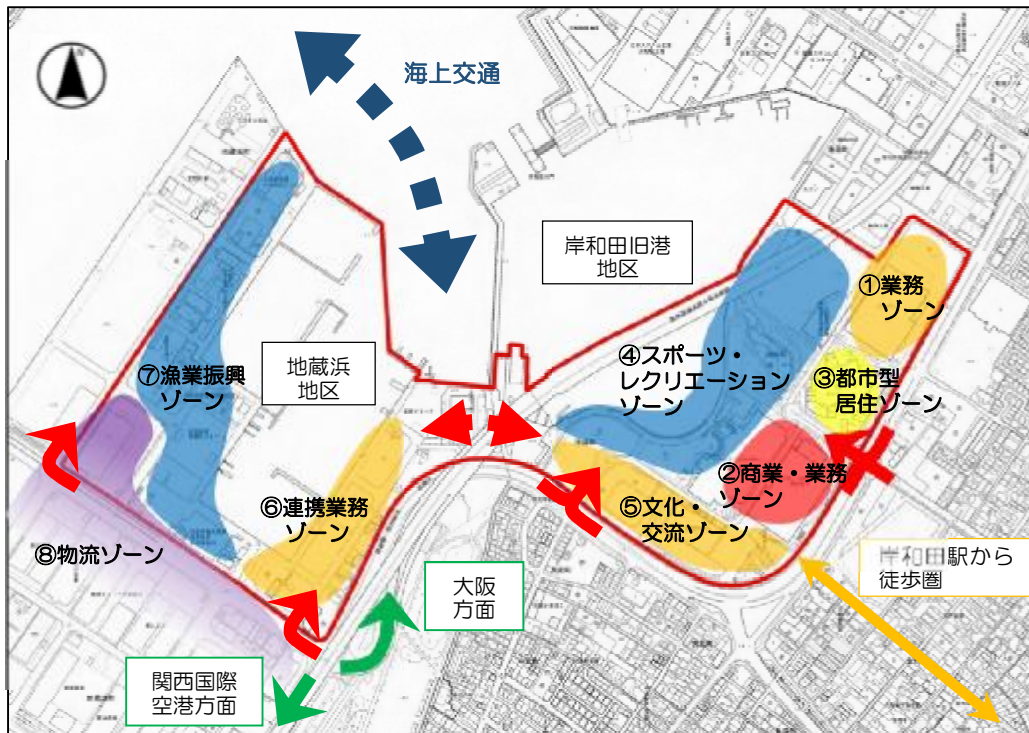
出典：貝塚市提供

4. “みがく”取組み

【重点エリア】

<岸和田旧港周辺>

- 港湾緑地及び未利用地（スポーツドーム跡地）の有効活用と岸和田カンカンベイサイドモールの将来的なリニューアルの検討。
- 文化・交流ゾーン（市立浪切ホール、市営駐車場）の新たな価値の創造。
- 連携業務ゾーンの漁業・水産業によるにぎわい創出機能の拡張及び規模を拡大し、漁業振興ゾーンや「みなとオアシス岸和田」各構成施設との連携を強化。
- 第2期広域浜プランに基づき、将来的な構成施設の拡張等を目指した取り組みを実施。
- 鮮魚市場機能を持った、加工施設整備を検討。
- 魚類・二枚貝等の「陸上養殖事業」の実現に向けた調査・研究。
- 地蔵浜みなとマルシェ開催日に合わせた、道の駅愛彩ランドとの交通アクセスの整備を検討。
- 府内3オアシス（大阪港・天保山、岸和田、みさき）の連携事業（海上交通拠点の整備等）の検討。



出典：岸和田市提供

「岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想」

《基本コンセプト》

『豊富な資源をいかした“にぎわいが持続・発展する魅力ある交流拠点”を実現！』

《目指すべき姿》

- 地蔵浜地区・岸和田旧港地区、それぞれの資源や魅力を発掘・整理し、お互いに連携することにより1つの地域として価値を高めるとともに、にぎわいを創出し、一帯の活性化を図る。
- 立地条件や交通アクセス等の優位性を活用し、岸和田市内だけでなく泉州地域や関西国際空港などとの交流、観光の視点を強化し、にぎわいの創出に寄与する。
- 臨海部から市域全体に活性化の波及効果を図る。

TOPIC みなとオアシス

『みなとオアシス』とは、旅客ターミナル・広場・海浜など「みなと」の施設やスペースを活用して、住民参加型の継続的な地域振興に関する取り組みが行われる、地域交流拠点施設及び地区のことで、みなと・海岸を活用して人々が交流することができる“にぎわい交流拠点”をつくり出すものです。

また、他の『みなとオアシス』とも連携した取り組みを行うなど、ベイエリアにおける連続したにぎわいの創出に寄与します。

『みなとオアシス』は、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録し、全国で147ヶ所、大阪府では3ヶ所登録されています。（令和2年12月10日現在）

【構成施設】

- ・旅客施設、展望施設、多目的ホール
- ・観光案内施設
- ・駐車場、トイレ、津波避難タワー
- ・産地直売施設、レストラン など

【設置者・運営者】

- ・地方公共団体（港湾管理者含む）
- ・NPO団体、協議会 など



シンボルマーク
（みなとオアシス標章）

♪ みなとオアシス 大阪港・天保山 ♪

「みなとオアシス大阪港・天保山」は、わが国屈指の貿易港である大阪港において、クルーズ船が入港するなどにぎわいの中心地である築港地区に位置し、「天保山西岸壁客待合所」をはじめとする7施設を構成施設としています。



【大阪のみなとオアシス MAP】



♪ みなとオアシス みさき ♪

「みなとオアシスみさき」では、「深日港観光案内所」を中心に、海辺に点在する魚市場・ヨットハーバー・海上釣り堀・青少年海洋センターなどにおいて提供されるアクティビティ・海産物販売・宿泊や各種イベントなどを連携させ発信するなど、海・みなとを核とした活性化に取り組んでいます。



♪ みなとオアシス 岸和田 ♪

「みなとオアシス岸和田」では、「みなとマルシェ」や「岸和田カンカンベイサイドモール」などにおいて提供される岸和田の観光情報発信や各種にぎわいイベントなどを通じ、旧港地区と地蔵浜地区とが一体となった新たな地域の魅力づくりに取り組んでいます。



出典：国土交通省近畿地方整備局ウェブサイトより抜粋

4. “みがく”取組み

■ 関空・りんくう地区の取組み

【現状・ポテンシャル】

<観光・にぎわい>

- 国内最大級のアウトレットモールなどの大規模な商業施設や大阪湾を活かした漁港やマリナーが立地し、近年は多数のホテルが立地するなど国内外から多数の人が来訪
- 官民連携により、国際大会が開催可能なスケートリンク（関空アイスアリーナ）等が立地するりんくうアイスパークやスポーツ・食・レジャーをまとめて楽しむことのできる地域資源を活かした都市公園「SENNAN LONG PRAK」が整備され、新たなにぎわいを創出 等

<産業>

- 地域活性化総合特区を活用し、国際医療交流の推進等に向けた取組みが進行
- 関西国際空港に近接する立地を活かしたMICE誘致に向けた取組みが進行
- 関西国際空港に近接する立地を活かし、食品の流通・加工拠点が集積 等

<環境・景観>

- りんくう公園をはじめ大規模な緑地があり、ロックガーデンや親水空間等が整備されている
- 白大理石が敷き詰められた人工海浜のマーブルビーチは「恋人の聖地」に認定され、サザンビーチとともに「日本の夕陽百選」にも選定 等

<まちづくり・インフラ>

- 完全24時間空港である関西国際空港が立地
- りんくうまちづくり協議会において、大阪・関西の空の玄関口として地域全体でまちの魅力や集客性の向上に向けた取組みを推進 等



出典：地理院タイルを加工して作成

【取組みの方向性】

関西国際空港に近接した、大阪・関西の空の玄関口として、国内外との交流やにぎわいの創出に向け、更なる機能充実を図るとともに、公園や人工海浜を活用し、四季を通じてにぎわう観光・レクリエーション拠点を形成する。あわせて、地域や企業の立地ニーズに対応した適切な土地利用を誘導し、産業・業務機能の強化を図る。さらに、快適な歩行者空間やシェアサイクルや循環バス等の導入により、ベイエリア内の回遊性やアクセス性の向上を図る。

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 関西国際空港に近接する立地特性を活かした国際会議等のMICEの誘致
- 商業施設や宿泊施設、駅との連携によるりんくう公園と周辺地域が一体となったにぎわいの創出
- 子どもや高齢者が気軽にアイススケートを楽しむことができる取組みの促進
- 関西国際空港と連携した取組みや多様なイベントによるにぎわいの創出
- 田尻漁港における朝市や漁業体験などの観光漁業の取組みの促進 等

<産業>

- ICTなどの知識集約型産業、環境・エネルギーやバイオ、医療・介護・健康といった次世代型産業などの導入
- 関西国際空港における大阪産（もん）や地域ブランドの農水産物の輸出強化 等

<環境・景観>

- 空港島を望む眺望を活かした空間形成の促進
- 空港島や空港連絡道からの眺望を意識した空間演出
- 田尻スカイブリッジのライトアップ、関空クルージングなど、景観資源を活かした魅力向上 等

<まちづくり・インフラ>

- 関西国際空港旅客ターミナルの再生・整備、海上アクセスの機能強化によるシー＆エアーの促進
- 空港を補完する商業・業務機能とこれらのサービス機能の立地による多面的な土地利用の促進
- 土地の高度利用など、国際交流拠点にふさわしい、高次都市機能の集積促進
- シェアサイクルや循環バスなど、多様な移動手段によるりんくうタウン内の周遊性の向上 等

4. “みかく”取組み



出典：泉佐野市観光協会ウェブサイト



出典：大阪ミュージアム登録物



出典：泉佐野市観光協会ウェブサイト



出典：田尻町ウェブサイト



出典：地理院タイルを加工して作成



出典：大阪ミュージアム登録物



出典：泉南市提供

4. “みがく”取組み

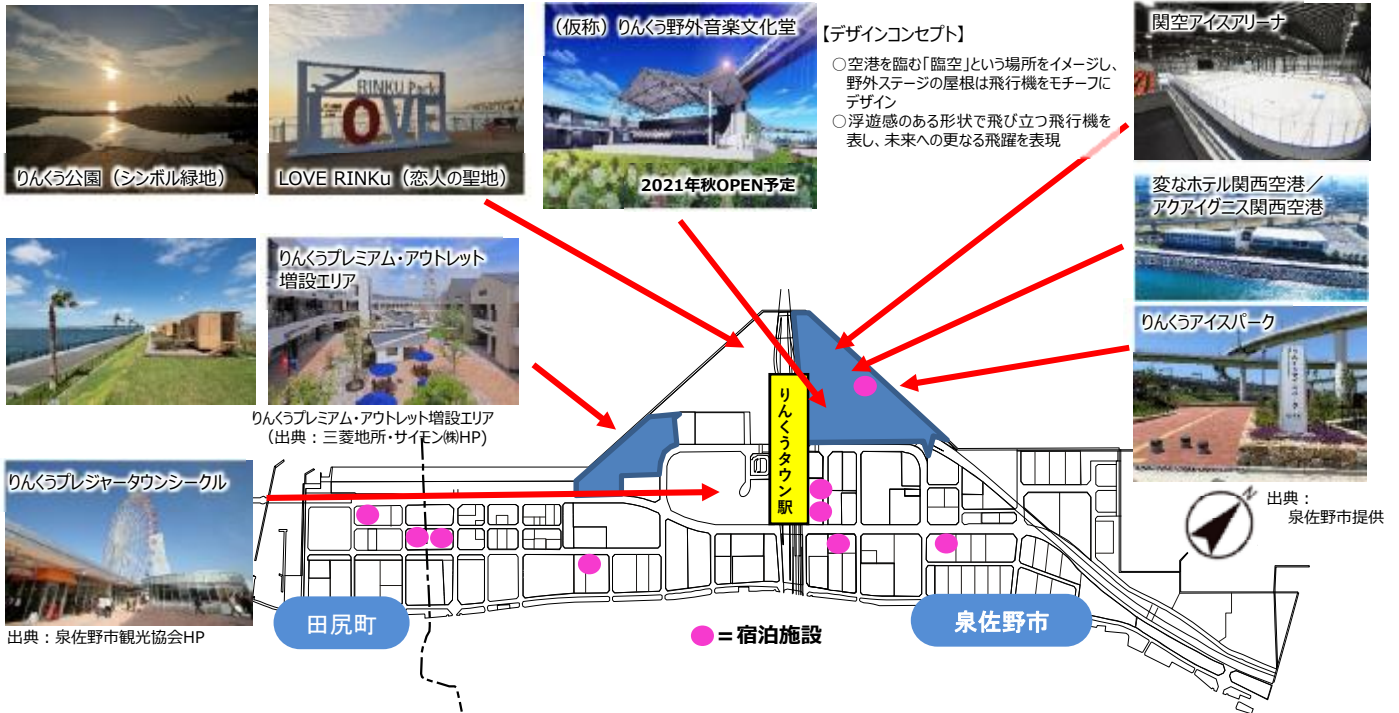
【重点エリア】

〈りんくうタウン〉

民間活力による公園予定地の暫定利用、地元市による公園整備への協力、民間事業者や地元市町が主体で進めるにぎわいづくりの促進により、公民連携による活性化の取組みを推進。

◆りんくうタウン北地区

- アイススケート場を核としたりんくうアイスパークやフィッシャーマンズワーフ区域の賑わい創出
- りんくう野外文化音楽堂などを活かした誘客の促進
- 北地区全体の周遊性を高め、地区内の宿泊施設を含む各施設と連携し、エリア全体での観光振興



◆田尻町にぎわい交流ゾーン (りんくうタウン中地区含む)

- たじりっち広場や今後整備が予定されるりんくう公園などの新施設を活用した健康づくりや観光事業の強化
- 住民間や来訪者との交流促進によるにぎわいの創出
- 観光漁業化の支援や農業特産品のブランディングなどを通じ、各産業の活性化
- 田尻歴史館の運営再開における官民協働、観光協会と連携したイベントの開催などによる観光振興体制の充実



「第5次田尻町総合計画 (令和2年3月に策定)」
町内外の交流促進や来訪者迎え入れのための田尻町の顔となり、にぎわいの核となるゾーンとして、田尻漁港を中心に、田尻歴史館や田尻スカイブリッジ、りんくう公園などを加えたエリアを設定。
計画期間中に特に重点的に取り組む、3つの戦略プロジェクトの一つとして、にぎわい交流ゾーンを活用したまちの活性化を位置づけ。



4. “みがく”取組み

■ 阪南～岬地区の取組み

【現状・ポテンシャル】

<観光・にぎわい>

- せんなん里海公園では、海水浴や潮干狩り、地引網体験等で内外から多くの人々が来訪
- 日本で唯一の常設型ビーチバレーコートのある潮騒ビーチバレーでは、全日本ビーチバレー女子選手権大会等が開催
- 日本遺産・葛城修験に登録された低山の登山では、近畿自然歩道の整備によって瀬戸内海国立公園の美しい大阪湾や淡路島が展望できるとともに、トレッキングやトレイルランが楽しめることから多くの人々が来訪
- 深日港と洲本港間の航路復活に向けた社会実験が行われている 等

<産業>

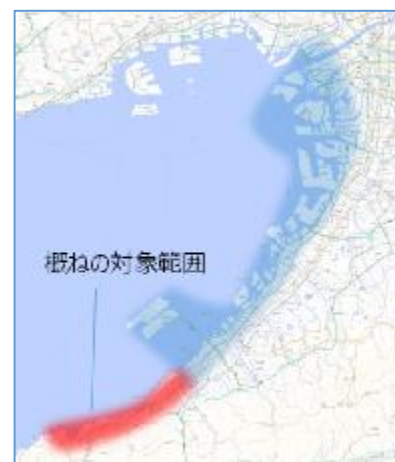
- 5つの漁港があり、海苔やワカメ、牡蠣の養殖が盛んに行われ、冬にはかき小屋が開かれる
- 広大な敷地を有する関西電力多奈川発電所・第二発電所の跡地への企業立地を促進し、産業の振興と雇用機会の拡大を図る取組みが進められている 等

<環境・景観>

- 自然海浜、海水浴場、マリナーや魚釣り施設等の海洋性レクリエーション施設が集積。
- 淡輪ヨットハーバー周辺では、年間を通してクルージング、フィッシング、セーリング等を楽しむことが可能。
- 長松海岸～せんなん里海公園周辺は関西国際空港、明石大橋、淡路島を一望でき「日本の夕陽百選」にも選定。 等

<まちづくり・インフラ>

- みなとオアシスみさきでは、にぎわいと交流による更なる活性化に向け、イベントや観光情報の発信などの交流拠点である深日港や海洋性レジャーの拠点である淡輪港など、海辺の地区・施設と連携し、みなとの施設やスペースを活用した住民参加型の地域振興の取組みなどが進められている。 等



出典：地理院タイルを加工して作成

【取組みの方向性】

自然海浜などの自然環境の保全・活用や海洋性レクリエーションによる憩い・癒しの空間を創出するとともに、マリンスポーツや豊かな水産資源を楽しむことができる、体験型観光を促進。

さらに、深日港を拠点とした海上ルートの構築に向けた取組みや広域的なサイクル連携により、淡路島や和歌山県との連携を促進するとともに、豊かな自然環境を活かした快適な歩行者空間を形成する。

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 漁港を中心とした交流空間等の整備、魚釣り施設や海浜空間におけるレジャー機能の強化
- せんなん里海公園などを活用したエコツーリズムや産業観光及び体験観光の促進
- ビーチスポーツの大会やウミホタル観察会、マリンフェスティバルなど“うみ”をテーマとしたイベントの実施
- 瀬戸内海国立公園や日本遺産・葛城修験のブランドを活かした広域観光による誘客
- 鉄道駅に近い深日港の機能を活かした海上交通の促進 等

<産業>

- 道の駅とつとパーク小島を活用した、地域の特産品の販売促進
- 関西電力多奈川発電所・第二発電所跡地の港湾施設を活かした企業誘致 等

<環境・景観>

- せんなん里海公園において、各種ボランティアとの連携による保全活動や体験型プログラムの提供
- 良好な水辺景観を形成する自然海浜、親水空間の保全
- 不法投棄の啓発活動やボランティアによる清掃活動の促進
- 街道沿いの歴史的な建造物やまちなみの保全と歴史性を活かした景観の誘導 等

<まちづくり・インフラ>

- みさき公園やせんなん里海公園を活用した広域交流機能の充実
- 自然海浜やせんなん里海公園などの海辺の景観や環境等を活かした滞在施設の立地促進
- ワーケーションに対応した環境整備
- 日本遺産・葛城修験や近畿自然歩道の森の環境を活かした地域魅力の向上 等

4. “みかく”取組み



潮干狩り (びちびちビーチ)

出典：阪南市提供



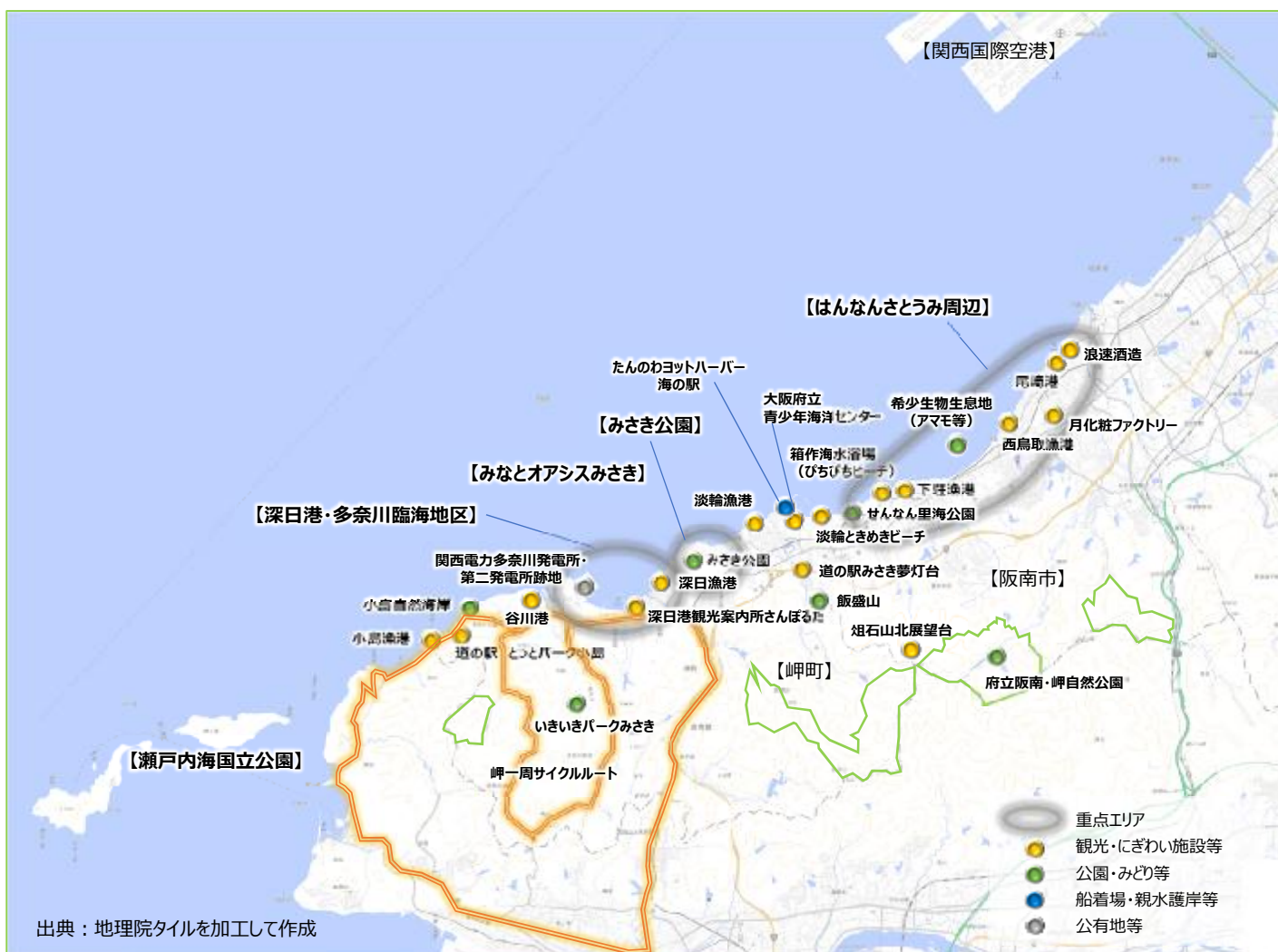
せんなん里海公園

出典：阪南市提供



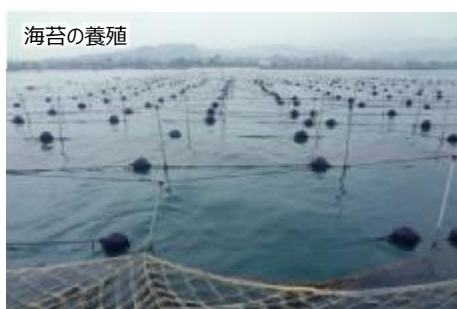
とっとパーク小島

出典：岬町提供



旭石山北展望台から見たベイエリア

出典：阪南市提供



海苔の養殖

出典：阪南市提供



小島自然海浜

出典：大阪ミュージアム登録物

4. “みがく”取組み

【重点エリア】

<はんなんさとうみ周辺>

- こどもの学習プログラムを通じた、府内最大のアマモ場の保全・再生活動の推進
- 牡蠣等の海産物や漁港を核とした交流空間等の整備
- 「ブルーカーボン・オフセット」の推進による海辺環境の保全、産業の活性化
- 海や山などのロケーションと都心や空港へのアクセスの良さを活かした、「都市型、都市部近郊ワーケーション」の推進
- 里海里山の魅力を感じることができる周遊コースの設定や、サイクリング等のアウトドアスポーツ、マリンアクティビティなどを活用した各種ツーリズムの推進
- せんなん里海公園などを活用したエコツーリズムや産業観光、体験観光の促進
- せんなん里海公園において、うみべの森やさとうみ磯浜、しおさい楽習館等を活用し、各種ボランティアとの連携による保全活動や体験型プログラムの提供

(これまでの主な取組み)

- ・平成29年 「全国アマモサミット2018」の開催
- ・平成30年 「G20サミット配偶者プログラム」の「海は輝くいのちの源」をテーマにしたシンポジウムにて、市の小学生が事例を発表
- ・令和2年 ワカメの養殖が「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」として関西初となる認証を取得



学習プログラムを通じたアマモの再生・保全活動



牡蠣の養殖



西鳥取漁港の牡蠣小屋



下荘漁港の牡蠣小屋



府内最大のアマモ場

出典：すべて阪南市提供

<深日港・多奈川臨海>

- 「深日港フェスティバル」の開催など、深日港を活かしたにぎわいの創出
- 関係機関と協議を図りながら、深日港の災害時の緊急物資輸送等災害拠点としての利用を促進
- 深日洲本航路復活に向け、深日港と洲本港間において、「深日洲本ライナー」を社会実験運航するとともに、「大阪湾をつなぐ！広域型サイクル・ツーリズム事業」を実施（洲本市と共同実施）
- 多奈川臨海地区における企業誘致を促進し、産業の振興と雇用機会の拡大を図り地域産業の更なる推進
- 関西電力多奈川発電所・第二発電所の跡地の港湾施設を活かした企業誘致の促進



深日港フェスティバル
(大阪湾クルーズ)

出典：岬町提供



INFINITY
(深日洲本ライナー)

出典：岬町提供



広域型サイクルツーリズム事業
(船上テッキの自転車)

出典：岬町提供



航空写真：深日港・多奈川臨海地区

「深日港の減災に向けた取組み」

- ・平成26年 国土交通省と海面清掃艇「海和歌丸」が災害時に深日港を代替拠点とする協定を締結
- ・平成27年 災害時には船で物資輸送を行うとした「災害時相互応援協定」を洲本市と締結



海和歌丸
(深日港寄港時の様子)

「多奈川臨海地区における企業誘致に向けた取組み」

- ・広大な敷地を有する関西電力多奈川発電所・第二発電所の跡地（約50ha）を岬町の産業拠点と位置付け
- ・岬町企業立地促進条例に基づく優遇措置
- ・「大阪府製造業の操業及び設備投資並びに産業集積の促進に係る法人の府民税及び事業所税並びに不動産取得税の税率等の特例に関する条例」に基づく産業集積促進地域に指定

4. “みがく”取組み

【重点エリア】

<みさき公園>

- 大人から子供まで幅広い世代層に親しまれ賑わいのある公園とするため、民間事業者の創意工夫を積極的に取り入れ、魅力ある「新たなみさき公園」づくりを推進
- 長松自然海浜を活かした更なる魅力向上

「新たなみさき公園が目指すべき基本的な方向性」

- 方向性 1：アウトドア・レジャーを思いきり楽しめる公園
- 方向性 2：人が集まり、交流する賑わいの公園
- 方向性 3：みどり豊かな自然に囲まれた憩いと癒しの公園
- 方向性 4：親と子が一緒に学び遊べる公園

<方向性イメージ>



アウトドア・レジャーを思いきり楽しめる公園



人が集まり、交流する賑わいの公園



みどり豊かな自然に囲まれた憩いと癒しの公園



親と子が一緒に学び遊べる公園



長松自然海浜

出典：大阪府ウェブサイト



現況平面図

みさき公園駅

凡例

都市公園区域 (33.4ha)

TOPIC 海の駅

『海の駅』は、誰でも、気軽に、安心して、楽しめる施設であり、車で陸から、プレジャーボートで海から、どちらからでもアプローチできるマリンレジャー拠点です。来訪者のための一時係留設備（ピジターバース）、トイレ、マリンレジャーに関する情報提供のための施設のほか、ホテルやレストラン等の施設を併設したところもあり、地域観光の足がかりとしても利用されています。また、レンタルボート等を利用したクルージングや、各種マリンイベントの開催、朝市による海産物等の販売、地元漁船等を活用した漁業体験など、地域の特性を活かした取り組みが実施されています。

『海の駅』は、海の駅設置認定委員会（近畿海域 事務局：国土交通省近畿運輸局 海事振興部 船舶産業課）が申請に基づき登録し、全国で172ヶ所、大阪府では6ヶ所登録されています。



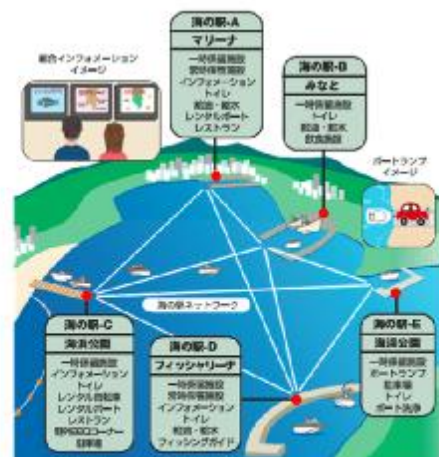
ロゴマーク



【大阪の海の駅 MAP】

海の駅イメージ図

- 誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、「憩える」海の駅
- 海からの玄関口、海から陸への窓口



5. “つなぐ”・“広げる”取組み

■ “つなぐ”・“広げる”取組みについて

【海上・水上交通の歴史・動向】

- 大阪湾は古くから、海上交通の要衝であり、江戸時代には、日本経済の中心地として、多数の廻船が往来
- 明治には、“水の都”と呼ばれ、水上交通が大阪の近代化を支えるとともに、多数の豪華客船が大阪湾と瀬戸内海を往来
- その後、高速道路・鉄道網の発達により、海上交通による人やモノの動きが減少
- また、USJの開業時に15あった大阪湾内各地とUSJを結ぶ航路が、現在は天保山－USJの1航路に減少し、深日－洲本・徳島、泉佐野－津名、関空－洲本等の航路が廃止され、現在、大阪湾内を往来する航路は関空－神戸空港のみ
- 一方、都心部の「水の回廊」を中心として、水辺のシンボル空間や船着場の整備、護岸や橋梁等のライトアップ等が進められ、水の都の魅力は格段に向上
- さらに、近年、大阪に寄港するクルーズ客船が着実に増加し、深日－洲本の航路復活に向けた社会実験が行われるなど、海上交通による人の動きが活性化するとともに、淀川では大堰開門設置に向けた取組みが進むなど、海と川をつなぐ新たな動きが出ている。
- 現在、新型コロナウイルスの感染拡大により、クルーズ客船の運航は大きな影響を受けているが、一部の国や地域で運航が再開されるほか、日本でも日本籍船による国内クルーズが運航再開されている。



出典：船の科学館所蔵



出典：水都大阪ウェブサイト



出典：水都大阪ウェブサイト

【大阪と自転車の関わり・サイクリング需要の動向】

- 堺を中心に、100年以上前からフリーホイール等の部品を製造。堺市には世界を代表する自転車部品メーカーが立地
- 全国都市交通特性調査によると、大阪市の自転車分担率は平日・休日とも全国で最も高く、日常的に自転車が交通手段として利用されている
- 近年、全国的に、健康増進、エコロジー、エコミー等の観点から移動手段やスポーツとして自転車を利用する人が増加
- スマートフォンの普及、IoT技術の進歩により都心部や観光地を中心にシェアサイクルが急速に普及するとともに、電動アシスト自転車の普及により、体力や地形に関わらず移動に自転車を利用する人が増加
- また、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、通勤時の利用など、自転車への関心が更に高まっている
- 大阪広域ベイエリアでは、堺市以南の13市町と民間企業等が一体となったサイクル連携の取組みや深日洲本ライナーによる広域型サイクル・ツーリズム事業の社会実験が行われるなど、公民連携の取組みが進んでいる



出典：国土交通省



出典：岬町提供



【取組みの方向性】

今後、夢洲における万博開催、IRの誘致等のインパクトを広域に波及させていくには、各エリアの多様な地域資源をいかした活性化の取組みや内陸部や近隣府県にある世界遺産等の魅力ある地域資源と連携した取組みを進める必要がある。

そのためには、大阪湾を中心に海上・水上交通ネットワークの充実を図るとともに、ピワイチやアワイチなどの広域的なサイクルルートとの連携を促進することで、人の移動を活性化していくことが重要。

さらに、海上交通と自転車を中心に、鉄道やバス等の他の交通モードとの連携を強化することで、アクセス性や回遊性の向上を図る必要がある。

海上交通による交流機能の充実と広域サイクル連携の促進を中心に、多様な移動手段の確保と相互の連携により“つなぐ”・“広げる”取組みを進め、新たな人の動きを創出するとともに、ベイエリアの魅力を感じながらゆっくりと移動を楽しむ環境を整える。

■ 荒海を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

～北前船寄港地・船主集落～

出典：文化庁ウェブサイトより抜粋

【日本遺産とは】

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。



【ストーリーの概要】

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。

そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

【主な構成文化財と関連自治体】

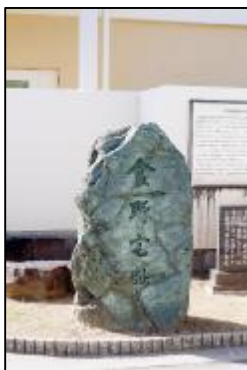
住吉大社



住吉大社の石灯籠群



食野家邸宅跡



市町村の位置図（全国地図）

※一部、大阪府追記



5. “つなぐ”、“広げる”取組み

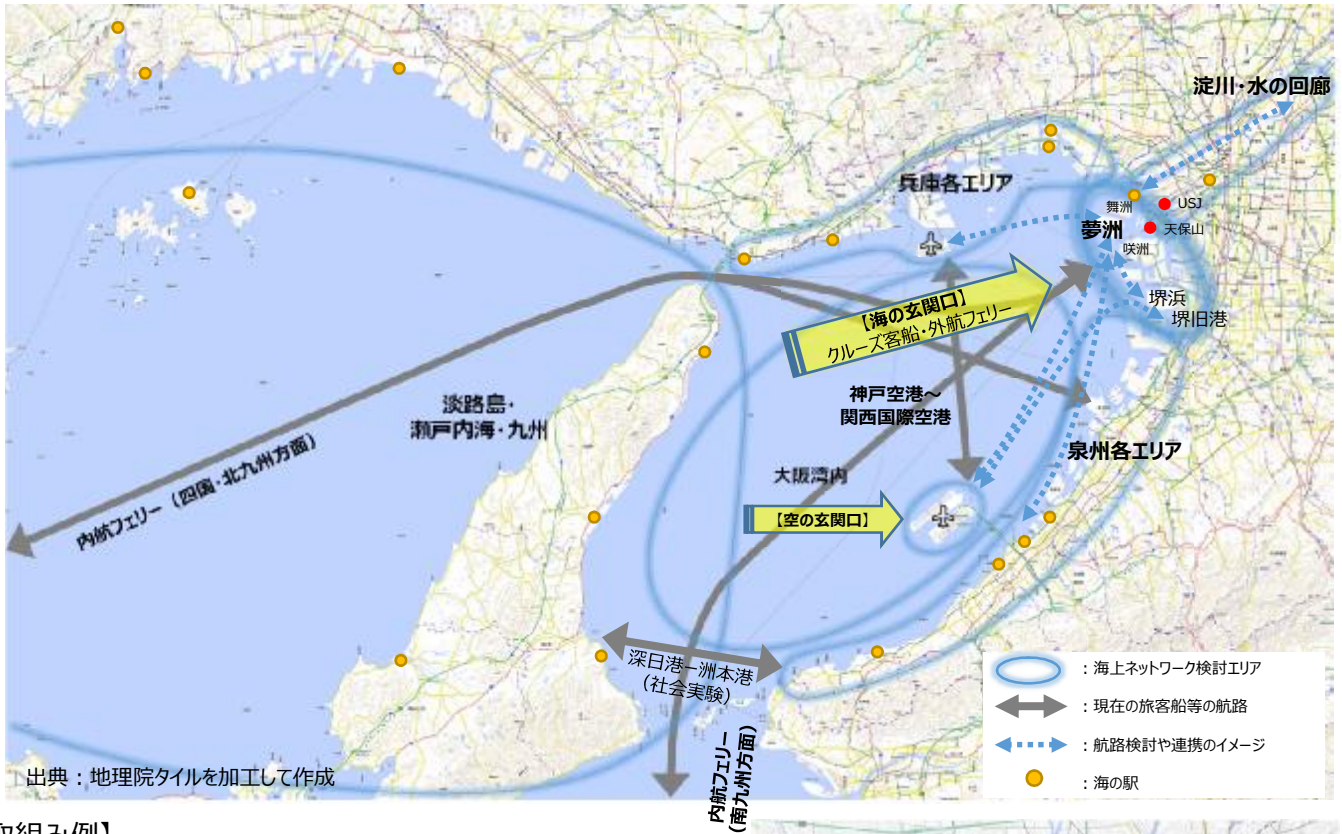
■海上交通による交流機能の充実

【取組みの方向性】

船着場周辺のまちづくりやにぎわい創出等による民間事業者の機運醸成を図りながら、大阪湾内の拠点を結ぶネットワークを充実させることで、多様な移動手段の確保、ベイエリアの回遊性の向上を図る。あわせて、海の駅などの活用により海洋性レクリエーションの活性化を図るとともに、周遊クルーズの充実等によりベイエリアの魅力を高める。

さらに、大阪湾と瀬戸内・西日本等を結ぶネットワーク、水都大阪（水の回廊）や淀川舟運と連携したネットワークなどの充実により、広域的な人の動きを創出する。

<海上・水上交通ネットワークイメージ>



【取組み例】

- オール大阪でのクルーズ客船誘致（再掲）
- 大阪府域全体へのクルーズ客船の乗客の訪問促進（再掲）
- 大阪湾と瀬戸内・西日本や兵庫・和歌山を結ぶネットワークの形成
- 淀川舟運と連携した京都方面との水上ネットワークの形成（淀川大堰開門の設置など）
- 水の回廊など「水都大阪」と連携した水上ネットワークの充実（中之島ゲートエリアにおける拠点整備など）
- 大阪・夢洲～堺～関空の水上ネットワークの形成
- 大阪湾内観光クルーズの充実（夜景クルーズ、関空クルーズ等）
- 臨海部の工場等への通勤手段としての活用
- 寄港地、停泊地や船着場周辺のにぎわい創出・魅力向上
- 船着場までのアクセスの快適性・利便性向上
- 海と川を運行可能な船舶や水素船など新技術を活用した船舶の導入促進
- 船内コンテンツの充実
- 自転車など、他の交通手段との連携 など



出典：国土交通省



5. “つなぐ”、“広げる”取組み

■広域サイクル連携の推進

【取組みの方向性】

大阪広域ベイエリアは琵琶湖と淡路島の間位置しており、泉州サイクルルートや社会実験として実施された深日洲本ライナー等の海上交通を活用しながら、各サイクルルートをつなぐ広域サイクルネットワークを形成するなど、観光やスポーツとしてのサイクリング環境を整備し、新たな人の動きを創出する。

あわせて、安全に通行できるサイクルルートの設定やシェアサイクルの効果的な活用により、内陸部から臨海部へのアクセス性や臨海部の回遊性の向上を図る。

<広域サイクル連携のイメージ>



【取組み例】

- 観光拠点や多様な景観資源等を結ぶサイクルルートの周知・情報発信（アプリやマップの活用、スタンプラリーやロゲイニングの開催など）
- ビワイチ、アワイチ、太平洋岸自転車道等と連携した、広域サイクルルートの形成
- 内陸部と夢洲を結ぶサイクルルートの整備（淀川・大和川沿川等）
- サイン表示など、統一的な通行環境整備
- サイクルサポートステーションの設置促進
- エリア内の回遊性向上に資するシェアサイクルの導入
- にぎわい拠点の整備や誘客イベントの実施、サイクル走行会の実施など、まちの周遊魅力の向上
- 海上交通（フェリー、渡船など）や鉄道など、他の交通ネットワークとの連携 など



5. “つなぐ”、“広げる”取組み

■その他の“つなぐ”取組み

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 夢洲～堺～泉州地域をつなぐ周遊ルートの構築
- 歴史文化資源等を活用したストーリー性のある観光ルートの構築やプロモーションの促進（世界遺産・日本遺産、寺内町等）
- 紀州街道等の歴史街道やだんじり祭、ふとん太鼓、伝統産業等の歴史文化を核とした連携
- 臨海部のにぎわい拠点等と内陸部の駅周辺商店街や歴史・文化地区等との連携による相乗効果の創出
- DMO等と連携した地域資源の発掘や魅力の発信等の推進
- 舞洲スポーツアイランドや堺浜のJ-GREEN堺等のスポーツ施設を活用した、プロ・アマの大会やイベントの実施
- 「西国の要 大阪・尼崎・岸和田 参城めぐりキャンペーン」、「恋人の聖地」、「夕陽百選」、「海の駅」などテーマに特化した広域連携
- 海の駅やみなとオアシス、魚釣施設、海水浴場等の海洋性レクリエーション施設の連携強化
- インフラツーリズム、スポーツツーリズムの推進
- 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を契機とした、各種スポーツイベント等における連携強化



出典：大阪ミュージアム登録物



出典：大阪ミュージアム登録物



出典：岸和田市ウェブサイト

<産業>

- 観光地、商業施設と連携した水産業の6次産業化
- 企業間・異業種間・産学官連携の推進
- シーズとニーズ、アイデアと中小ものづくり企業等の技術などマッチングの強化



出典：大阪府ウェブサイト

<環境・景観>

- 夕陽や工場夜景、港湾施設などをテーマとしたフォトコンテストの開催
- 都市公園と隣接にぎわい施設等との連携による活性化
- 公民連携による公園・緑地の活性化
- 里山保全との連携による海域環境の改善



出典：泉佐野市ウェブサイト



出典：大阪ミュージアム登録物

<まちづくり・インフラ>

- MaaSプラットフォーム、都市OSの構築
- 旅客船や自転車、鉄道等の相互連携やMaaS、自動運転バスなどの新技術の活用等によるベイエリア内の回遊性の向上
- 内陸部から臨海部への交通アクセスの向上（鉄道延伸・道路整備（夢洲へのアクセス）、自動運転バス、新たな交通システムの導入など）
- 新技術を活用し快適で楽しい移動を可能とするスマートモビリティ、エアモビリティ、ロープウェイなどの導入
- 淀川など沿川のまちづくりとの連携
- 広域的な自治体連携を促進する環境整備



出典：大阪IR基本構想



出典：経済産業省ウェブサイト



出典：経済産業省ウェブサイト

5. “つなぐ”、“広げる”取組み

＜“つなぐ”主な地域資源＞



5. “つなぐ”、“広げる”取組み

■その他の“広げる”取組み

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 世界遺産や日本遺産の連携など、関西・西日本等の拠点を結ぶ観光ルート形成（北前船の寄港地を巡る航路など）
- 水上飛行機を活用した瀬戸内、日本海や琵琶湖方面への観光連携
- 瀬戸内アートとの連携など、テーマに特化した広域連携の促進
- 行政・民間団体の連携によるバイエリアが一体となった国内外への情報発信・知名度向上



<産業>

- 全国豊かな海づくり大会の招致、魚庭（なにわ）の海づくり大会の開催などによる漁業の魅力発信
- 関西各地の学術・研究拠点との連携強化



出典：堺市ウェブサイト

<環境・景観>

- 全国工場夜景サミット、全国アマモサミット等を通じた広域連携

<まちづくり・インフラ>

- 旅客ターミナルの再生・整備など関西国際空港の機能強化
- なにわ筋線の整備促進など、関西国際空港のアクセス利便性・速達性の向上
- 陸海空におけるシームレスな交通体系の構築
- 太平洋新国土軸構想の実現に寄与する取組み



<関西・西日本との連携イメージ（広げる）>



6. “育てる”取組み

【取組みの方向性】

大阪広域ベイエリアがめざす姿を実現していくためには、事業化までに時間を要するものや、継続的な取組みが必要なものも多い。
そのため、社会実験や初動期の支援により、事業や活動を育てるとともに、まちづくりの担い手となる人や組織を育てる必要がある。
あわせて、観光資源や自然環境、まちのブランディング、情報発信による魅力向上を進めるとともに、海やまちへの意識向上や愛着を育てる活動を促進する。

【取組み例】

<観光・にぎわい>

- 公民連携による社会実験、モニターツアーやファミトリップの実施（サイクルルート試走会、舟運試験運行など）
- みなとオアシスへの登録、世界遺産・日本遺産との連携等による、まちのブランドの育成
- 公民連携による情報発信の強化



出典：大阪府ウェブサイト

<産業>

- 漁業・伝統産業等の担い手の育成
- スタートアップ支援による企業等の育成
- 新技術や産業構造の変化に対応できる人材の育成
- 大阪産（もん）のブランド化の促進



出典：堺市ウェブサイト

<環境・景観>

- NPO、府民、企業等、多様な主体と連携した生物多様性に関する普及啓発活動
- 全国豊かな海づくり大会等を通じた、水産資源の保護や環境保存に対する意識向上
- 環境教育等による自然環境保全等の意識醸成（海への関心の向上）



出典：大阪府ウェブサイト

<まちづくり・インフラ>

- エリアマネジメントによる地域魅力の維持・向上
- まちづくりの担い手の育成、関係人口の増大に向けた取組み
- 最先端の技術導入等による、道路、広場等の機能向上
- まち歩き等による自分たちのまちの魅力の発見など、地元住民のまちづくりへの機運醸成
- パークマネジメントなど、民間活力による公共施設の活性化
- まちづくり構想や愛称募集等の様々なコンペ実施による民間投資の誘発や府民・市民への情報発信
- 社会実験等へのクラウド・ファンディングの活用



出典：大阪府ウェブサイト

7. 実現に向けて

■ 様々な主体が連携したベイエリアのまちづくり

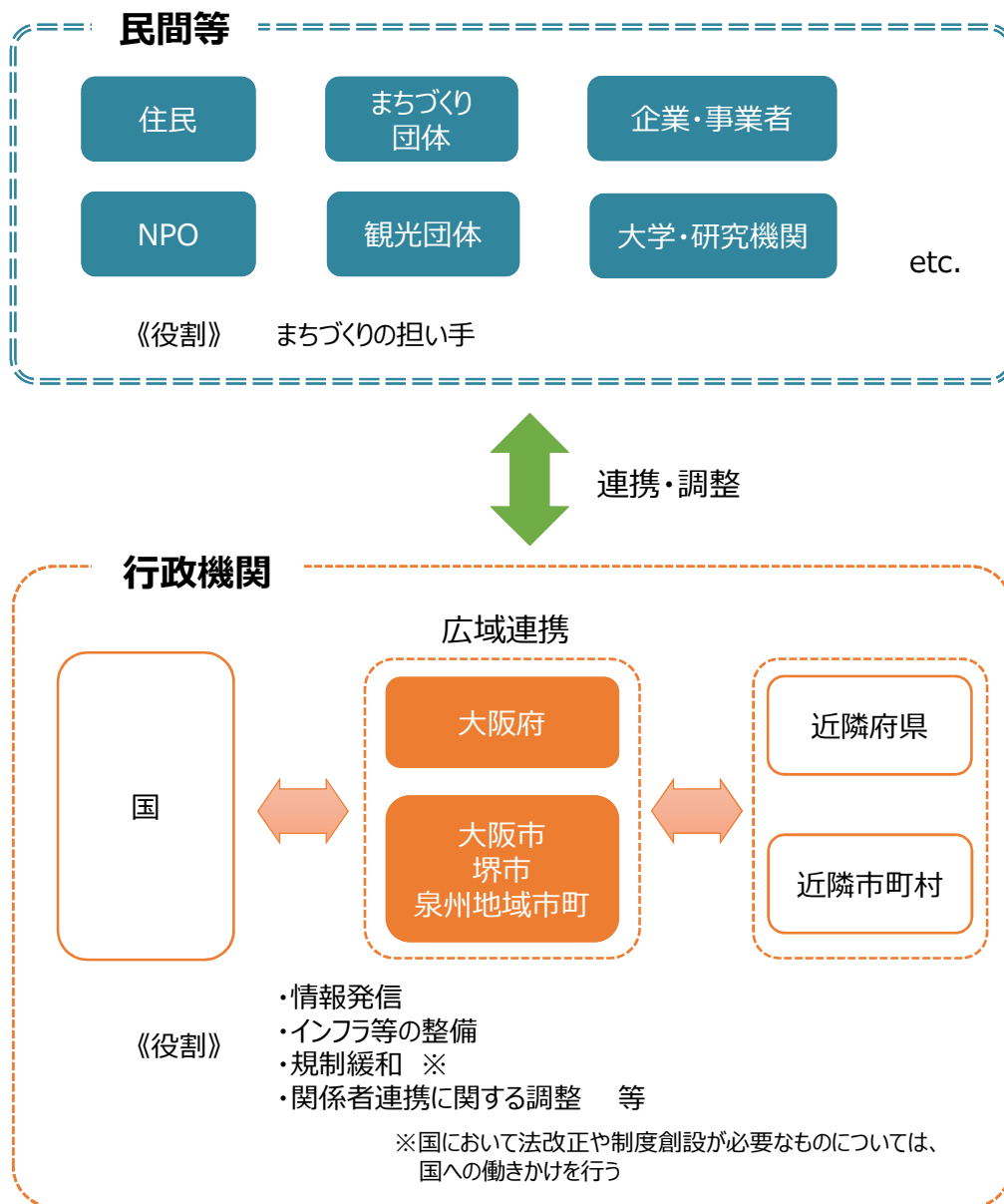
本ビジョンをベイエリアのまちづくりに関わる様々な主体が共有し、それぞれの役割を果たすとともに、更なる連携を促進し、相乗効果を発揮するよう取組む。

既に、泉州地域の観光振興に取組む（一社）KIX泉州ツーリズムビューローや紀泉地域の広域観光に関する広域連携を推進する紀泉連絡会など、自治体の広域連携の取組みが進みつつある。

2050年の大阪広域ベイエリアがめざす姿の実現には、今後の社会状況の変化にも対応しながら、民間の活力を最大限発揮し、まちづくりを進める必要がある。

そのため、柔軟な制度の運用や必要な規制緩和、政策的な誘導など、民間が参画しやすい仕組みづくりについて、関係者と連携し検討を進め、ベイエリアのまちづくりを推進するとともに、適切な進行管理を行う体制を構築する。

【推進体制】



【民間が参画しやすい仕組みづくり】

<検討例>

- スマートなまちの実現に向けて
 - ・国家戦略特区制度の活用（スーパーシティ等） など
- 土地利用・水面利用の促進に向けて
 - ・海域や行政財産の長期占用利用
 - ・用途規制等の都市計画制限の緩和 など
- 産業の国際競争力の強化に向けて
 - ・工場用地の緑化基準の緩和
 - ・産業副産物の活用 など
- 海上交通の活性化に向けて
 - ・定期旅客船の運航に係る要員の確保 など

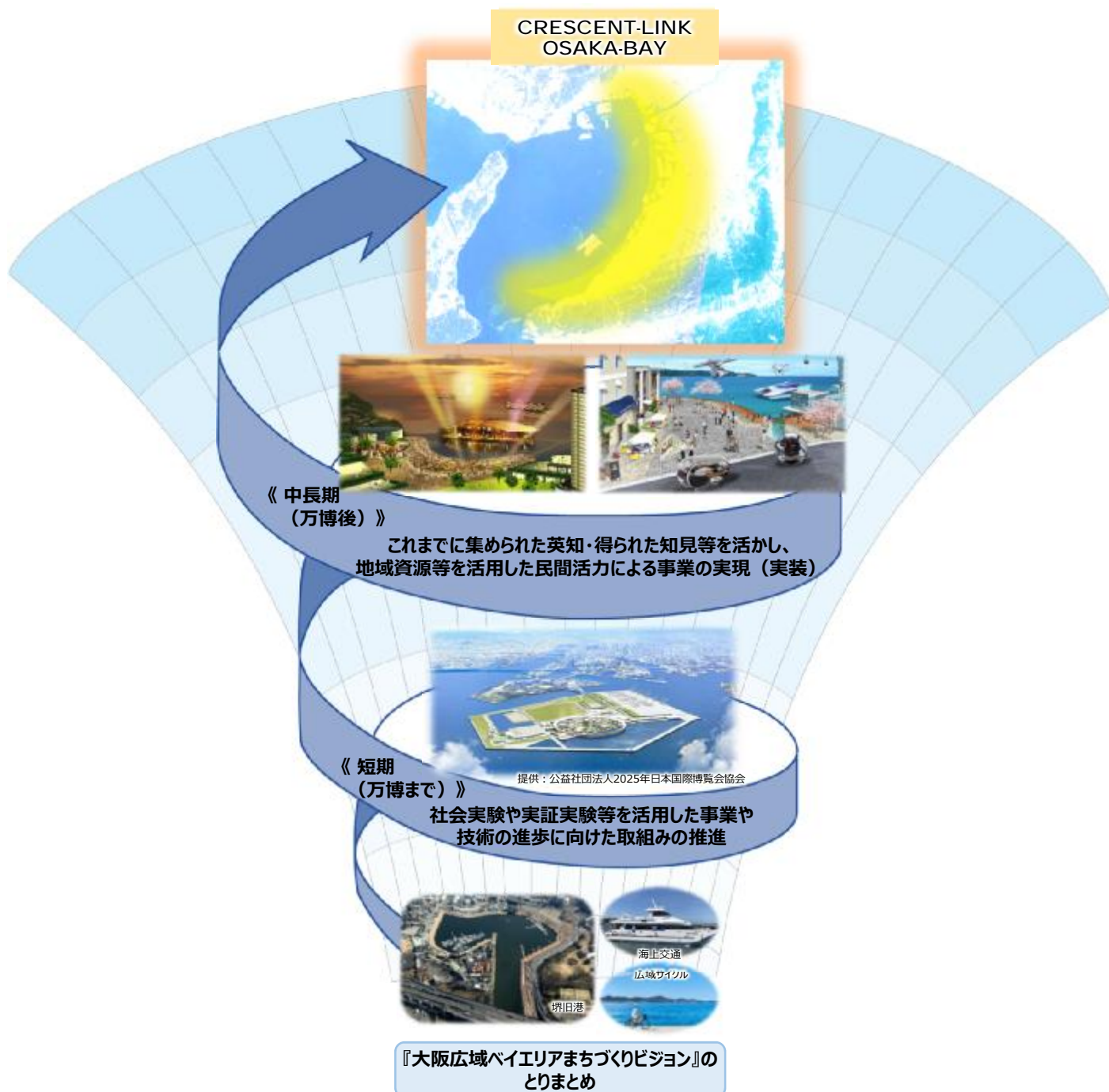
7. 実現に向けて

■まちづくりのステップアップイメージ

多様な地域資源や既存ストック等を活用することに加え、社会実験や実証実験制度等を活用することにより新たな事業の創出や技術の進歩を図り、それらを大阪広域バイエリアのまちづくりの進展へと繋げることが重要である。

そこで、2025年に開催される大阪関西万博や社会実験等により集められた英知や得られた知見等を活用した事業化（実装）を推進することや前述の推進体制の構築、民間が参画しやすい仕組みづくりなどにより更なる進展を図り、“CRESCENT-LINK OSAKA-BAY”の実現を図る。

【イメージ図】



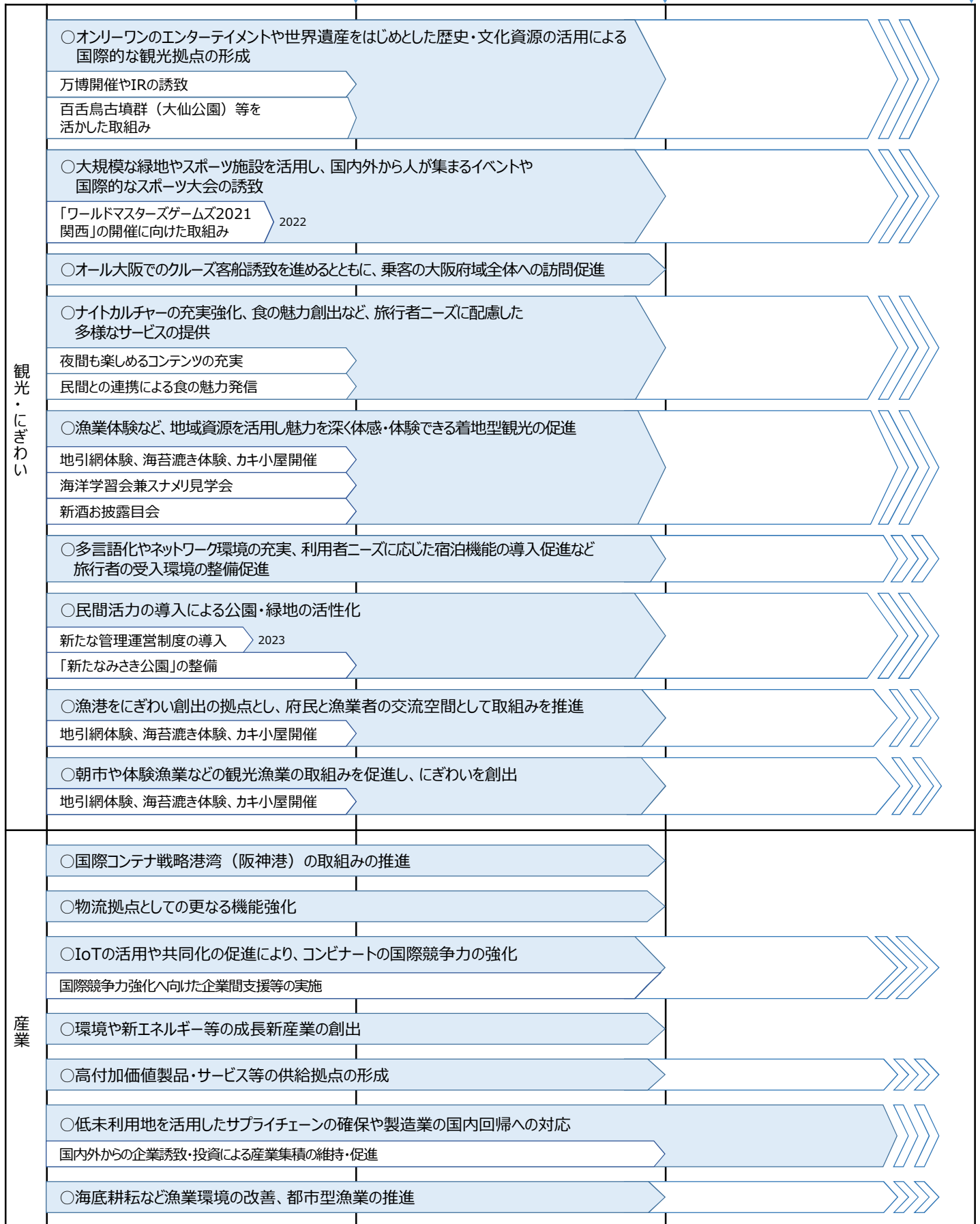
【参考】主な取組みの目標年次

<みがか>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年



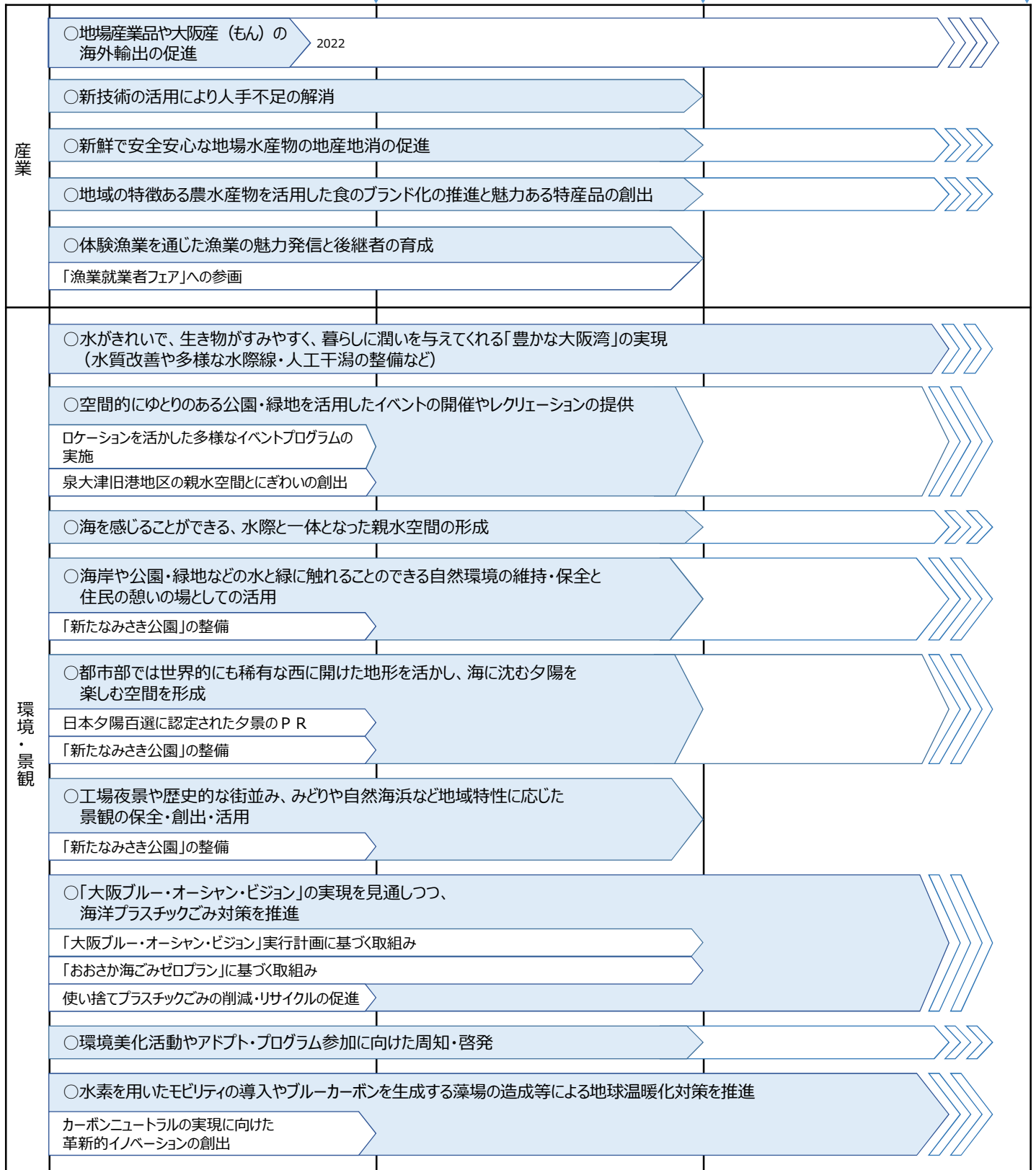
【参考】 主な取組みの目標年次

<みがか>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年



【参考】主な取組みの目標年次

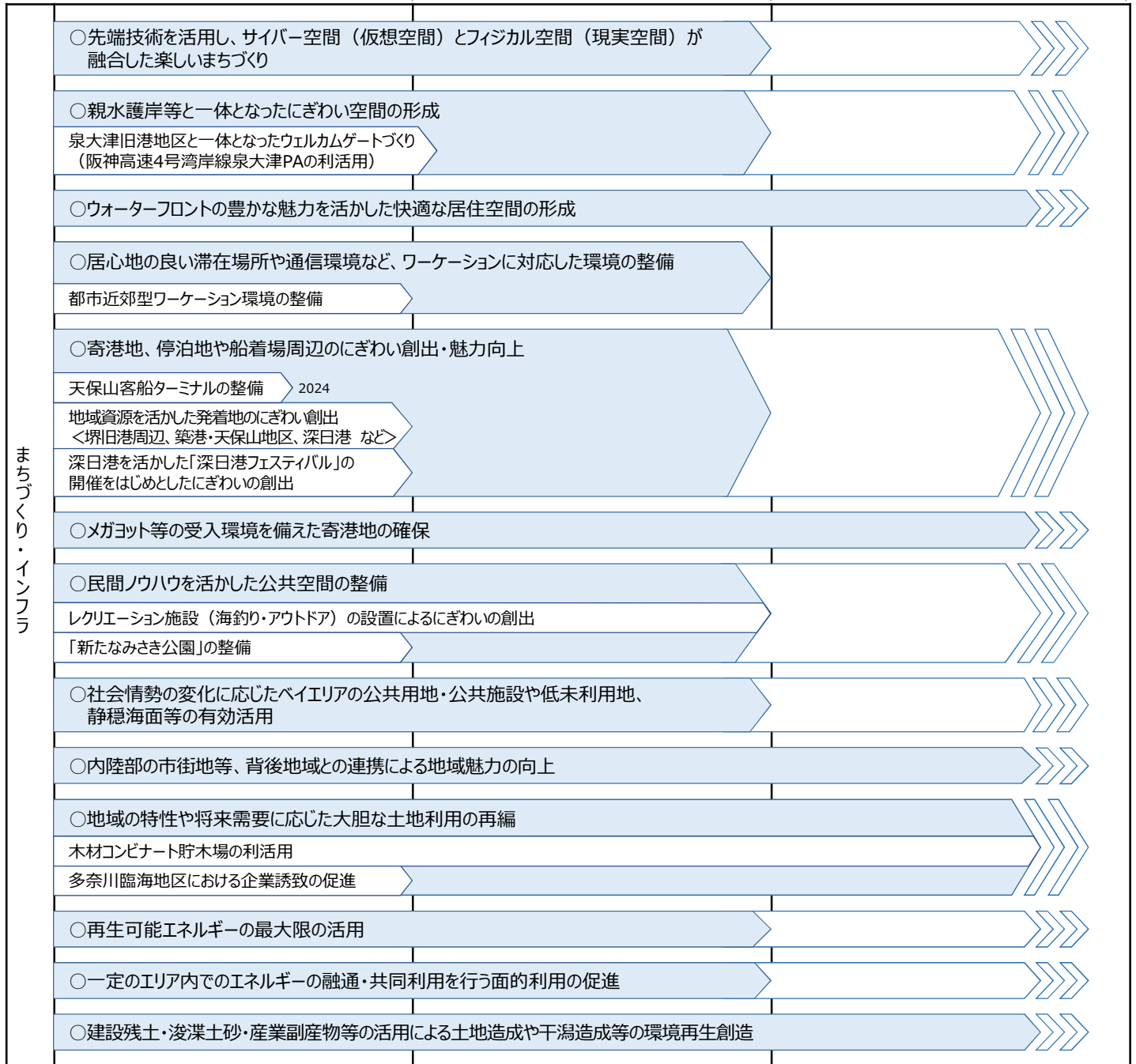
<みがか>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年

まちづくり・インフラ



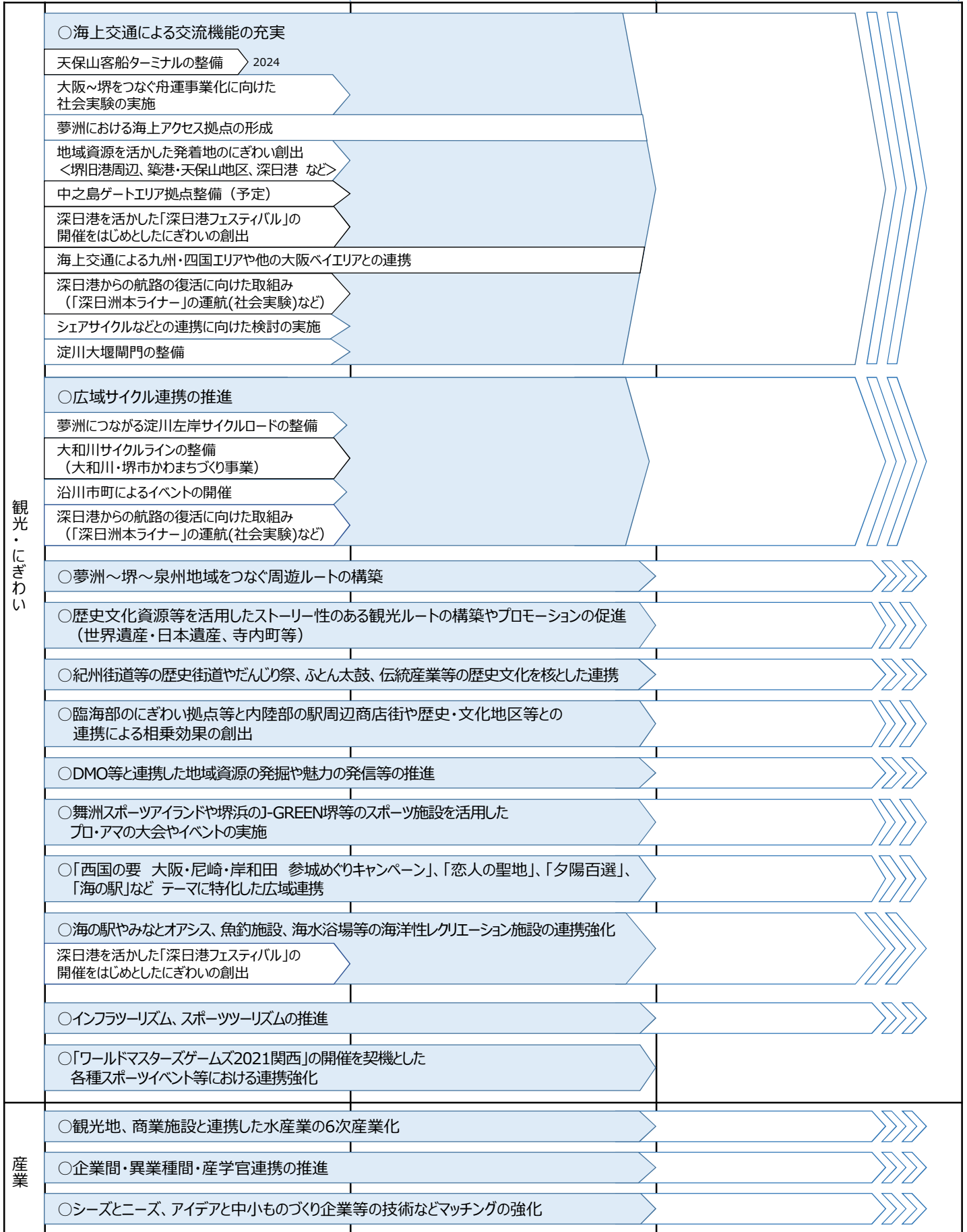
【参考】 主な取組みの目標年次

<つなぐ>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年



【参考】 主な取組みの目標年次

<つなぐ>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年

	2025年（大阪・関西万博）	2030年（IR・なにわ筋線）（※）	2040～ 2050年
環境・景観	○夕陽や工場夜景、港湾施設などをテーマとしたフォトコンテストの開催		
	○都市公園と隣接にぎわい施設等との連携による活性化		
	「新たなみさき公園」の整備		
	○公民連携による公園・緑地の活性化		
	（仮称）小松公園の整備 2023		
	「新たなみさき公園」の整備		
○里山保全との連携による海域環境の改善			
まちづくり・インフラ	○都市OSの構築		
	○MaaSプラットフォームの構築		
	○旅客船や自転車、鉄道等の相互連携やMaaS、自動運転バスなどの新技術の活用等によるベイエリア内の回遊性の向上		
	○内陸部から臨海部への交通アクセスの向上 （鉄道延伸・道路整備（夢洲へのアクセス）、自動運転バス、新たな交通システムの導入など）		
	大阪メトロ中央線延伸（南ルート） 2024		
	都心地域と臨海部とをつなぐ交通ネットワークの機能強化に関する検討		
	南海本線・高師浜線連続立体交差事業		
	都市計画道路泉大津駅前通り線の整備		
	○新技術を活用し快適で楽しい移動を可能とするスマートモビリティ、エアモビリティ、ロープウェイなどの導入		
	空飛ぶクルマの実現に向けた取組み（空飛ぶクルマ社会実装推進事業）		
○淀川など沿川のまちづくりとの連携			
○広域的な自治体連携を促進する環境整備			

<広げる>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年

	2025年（大阪・関西万博）	2030年（IR・なにわ筋線）（※）	2040～ 2050年
観光・にぎわい	○世界遺産や日本遺産の連携など、関西・西日本等の拠点を結ぶ観光ルートの形成 （北前船の寄港地を巡る航路など）		
	○水上飛行機を活用した瀬戸内、日本海や琵琶湖方面への観光連携		
	○瀬戸内アートとの連携など、テーマに特化した広域連携の促進		
	○行政・民間団体の連携によるベイエリアが一体となった国内外への情報発信・知名度向上		
	○淀川舟運と連携した京都方面との水上ネットワークの形成		
淀川大堰閘門の整備			
産業	○全国豊かな海づくり大会の招致、魚庭（なにわ）の海づくり大会の開催などによる 漁業の魅力発信		
	魚庭（なにわ）の海づくり大会の開催		
	全国豊かな海づくり大会の開催をめざす 2026		
○関西各地の学術・研究拠点との連携強化			

【参考】 主な取組みの目標年次

<広げる>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年

	2025年（大阪・関西万博）	2030年（IR・なにわ筋線）（※）	2040～ 2050年
環境・ 景観	○全国工場夜景サミット、全国アマモサミット等を通じた広域連携		
まちづくり・ インフラ	○旅客ターミナルの再生・整備など関西国際空港の機能強化		
	○なにわ筋線の整備促進など、関西国際空港のアクセス利便性・速達性の向上		
	○陸海空におけるシームレスな交通体系の構築		
	○太平洋新国土軸構想の実現に寄与する取組み		

<育てる>

2025年（大阪・関西万博）

2030年（IR・なにわ筋線）（※）

2040～
2050年

	2025年（大阪・関西万博）	2030年（IR・なにわ筋線）（※）	2040～ 2050年
観光・ にぎわい	○公民連携による社会実験、モニターツアーやファミトリップの実施（サイクルート試走会、舟運試験運行など）		
	大阪～堺をつなぐ舟運事業化に向けた検討 及び社会実験の実施		
	地域資源を活かした発着地のにぎわい創出 <堺旧港周辺>		
	○みなとオアシスへの登録、世界遺産・日本遺産との連携等による、まちのブランドの育成		
産業	深日港を活かした「深日港フェスティバル」の 開催をはじめとしたにぎわいの創出		
	○公民連携による情報発信の強化		
	○漁業・伝統産業等の担い手の育成		
	「漁業就業者フェア」への参画		
	○スタートアップ支援による企業等の育成		
	○新技術や産業構造の変化に対応できる人材の育成		
環境・ 景観	○大阪産（もん）のブランド化の促進		
	魅力発信・消費拡大に向けたプロモーション等の展開		
	○NPO、府民、企業等、多様な主体と連携した生物多様性に関する普及啓発活動		
	「大阪市生物多様性戦略」に基づく生物多様性の保全の取組みの実施		
	○全国豊かな海づくり大会等を通じた、水産資源の保護や環境保存に対する意識向上		
	○環境教育等による自然環境保全等の意識醸成（海への関心の向上）		
	小学校への出前講座や「なにわECOスクエア」等を活用した講座の実施		
	水環境イベントやゴミ減量セミナーなどの実施		

【参考】 主な取組みの目標年次

＜育てる＞		2025年（大阪・関西万博）	2030年（IR・なにわ筋線）（※）	2040～ 2050年
まちづくり・インフラ	○エリアマネジメントによる地域魅力の維持・向上			▶▶▶
	○まちづくりの担い手の育成、関係人口の増大に向けた取組み			▶▶▶
	○最先端の技術導入等による、道路、広場等の機能向上			▶▶▶
	○まち歩き等による自分たちのまちの魅力の発見など、地元住民のまちづくりへの機運醸成			▶▶▶
	○パークマネジメントなど、民間活力による公共施設の活性化 「新たなみさき公園」の整備	▶		▶▶▶
	○まちづくり構想や愛称募集等の様々なコンペ実施による民間投資の誘発や府民・市民への情報発信			▶▶▶
	○社会実験等へのクラウド・ファンディングの活用			▶▶▶

（※） I Rは2020年代後半、なにわ筋線は2031年の開業を想定しています。

【参考】

《大阪広域バイエリアまちづくり推進本部》

【本部長】 大阪府知事

【副本部長】 大阪市長、堺市長

【本部長】 大阪府 副知事、府民文化部長、商工労働部長、環境農林水産部長、
都市整備部長、大阪港湾局長、住宅まちづくり部長
大阪市長、経済戦略局長、都市計画局長、大阪港湾局長（再掲）
堺市長、文化観光局長、産業振興局長、建築都市局長

《検討経過》



